

## 平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

### 1. 学校概要

学校名 愛媛県立新居浜南高等学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫教育  
☐ 中学校 ☐ 中高一貫教育 ☒ 高等学校  
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育  
☐ 特別支援学校 ☐ その他 ( )

所在地 〒792-0836  
愛媛県新居浜市篠場町1番32号

E-mail niish-ad@esnet.ed.jp

Website http://niihamaminami-h.esnet.es.jp/

児童生徒数 男子 107名 女子 247名 合計 354名  
 児童・生徒の年齢 15歳～18歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- ☐ 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ☒ 国際理解
- ☒ 世界遺産
- ☒ 平和・人権
- ☒ 環境
- ☐ 気候変動
- ☐ 生物多様性
- ☐ エネルギー
- ☐ 防災
- ☐ 食育
- ☒ 伝統文化
- ☒ そのほか ( キャリア教育 )

### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

#### 主な活動一覧

[ ] : 主催 ( ) : 開催場所 なお、無明記は本校

月	日	内 容
4	13	遠足「マイントピア別子端出場ゾーン」事前学習会
	14	1年次生遠足「マイントピア別子端出場ゾーン～旧住友鉱山鉄道下部線跡経由～」
	15	愛媛新聞社企画「子ども記者が行く！」[愛媛新聞社]
	22	ライフスタディⅠ「別子銅山近代化産業遺産フィールドワークⅡ事前学習会」
	25	ユネスコ委員会発足
	26	総合的な学習の時間「ライフスタディⅡ」課題研究『あかがねの道～別子銅山の先人達の生き様からESDを学ぶ～』東平地区フィールドワーク①（以下、ライフスタディⅡ課題研究）
	30	旧別子地区研修登山
5	3	18歳からの選挙権～憲法から切り拓く自分の未来～ [日本青年会議所四国地区愛媛ブロック協議会]（あかがねミュージアム）
	5	別子山地区取材
	6	第38回ESD 中学高校連携事業「別子銅山を学ぼう！」市立船木中学校1年生59名
	12	ライフスタディⅠ 「別子銅山・近代化産業遺産フィールドワークⅡin山根エリア」2年次生120名
	19	「ツガザクラ保護活動」事前研修会～環境保護に向けた「私たちの百年の計」～
	19	第39回ESD 中学高校連携事業「別子銅山を学ぼう！」市立泉川中学校1年生73名
	22	第1回ツガザクラ保護活動
	24	ライフスタディⅡ課題研究 山根地区フィールドワーク
	26	産業社会と人間 「新居浜の過去・現在・未来～新居浜の歴史と地方創生～」(ユネスコ部出前授業)
	26	産業社会と人間 「新居浜の過去・現在・未来～新居浜の歴史と地方創生～」 (講師：新居浜市企画部地域創生推進室 室長 藤田康氏)
	27	ライフスタディⅠ 「主権者教育～話す・聞くディスカッション～」 (講師：リージョナルデザイン株式会社代表取締役 安孫子尚正氏)
	27	第1回図書館学習会「別子銅山 近代化産業遺産の旅～旧別子トラベラー～」
	28	第1回別子銅山を読む解説講座「住友の歴史(上・下)」 (講師：元別子銅山文化遺産課長 坪井利一郎氏) [別子銅山記念図書館]
6	1	東予信用金庫本店ロビー展 「ユネスコ部活動パネル展示～石見銀山現地研修報告～」開催(～7/4)
	4	スタディーツアー事前現地研修
	7	ライフスタディⅡ課題研究 上原地区フィールドワーク
	11	第9回別子銅山 山・浜・島あかがねの道スタディーツアー開催
	12	平成28年度 別子銅山産業遺産創造塾①[新居浜市]
	14	ツガザクラ保護活動②～事後研修会～
	14	ライフスタディⅡ課題研究 惣開地区フィールドワーク
	20	参議院議員選挙啓発CM 優秀作品授賞式ユネスコ部[新居浜市選挙管理委員会](市役所)
	21	第2回図書館学習会「別子銅山 近代化産業遺産の旅～東平地区トラベラー～」
7	10	平成28年度 別子銅山産業遺産創造塾②「山田社宅界限」
	12	ライフスタディⅡ課題研究 東平地区フィールドワーク②
	14	第3回図書館学習会「別子銅山 近代化産業遺産の旅～旧広瀬邸トラベラー～」
	14	伊予銀行登道支店ロビー展 「未来へつなぐ別子銅山～地域の宝から世界の宝へ～」展(～8/29)

月	日	内 容
7	17	平成 28 年度「TOYO 産業遺産ガイド」養成講座でのガイド [愛媛県東予地方局]
	19	東予信用金庫泉川支店ロビー展「石見銀山現地研修活動パネル」展開催 (～8/29)
	20	東北現地研修 「鉱山 (やま) 交流でつくる絆～その先にあるものを探して～」の事前学習会
	21～	東北現地研修
	24	(秋田県：小坂鉱山・尾去沢鉱山・ 阿仁鉱山では北秋田市立阿仁合小学校・秋田大学との交流事業)
	27	「別子銅山を学ぼう！」～銅の折り鶴づくり～ [船木公民館]
	27	東北現地研修報告会 (関福生教育長来校)
	28	「新居浜市シティブランド戦略の策定に向けた市民ワークショップ」 [新居浜市地方創生推進室] (市役所)
	30	第 21 回海外高校生スピーチコンテスト in 新居浜 (新居浜市市民文化センター) [県・市]
	31	第 21 回海外高校生スピーチコンテスト参加者の別子銅山観光案内 (東平～端出場)
8	1	平和の鐘を鳴らそう [新居浜ユネスコ協会] 新居浜ユネスコ協会青年部活動パネル展 (イオンモール新居浜・サウスコート広場)
	2	平成 28 年度地域に生き地域とともに歩む高校生育成事業に係る プロジェクトマネジメント講座 (生徒対象) (愛媛県総合科学博物館) [県教育委員会]
	6	第 7 回平和の鐘を鳴らそう [新居浜ユネスコ協会] (イオンモール新居浜)
	6～7	平成 28 年度 別子銅山創造塾③「端出場・山根・鹿森地区」別子ハイツ宿泊研修
	10	平成 28 年度愛媛県新規採用教員地域研修～別子銅山登山研修～
	12	愛媛県東予地方局とのイベント打ち合わせ
	13	平成 28 年度社会教育主事講習「社会教育現地演習」 [愛媛大学] (マイントピア別子端出場ゾーン)
	19	別子銅山近代化産業遺産創造塾 適正審査・認定証授与式 (新居浜市役所)
	20～	「ふる里新居浜の誇り発見物語」展
	30	[新居浜まちおこし委員会] (新居浜市立別子銅山記念図書館)
9	23	教員のための博物館の日 2016「東予の誇れる産業遺産 (たから)」講習会 [愛媛県東予地方局] (愛媛県総合科学博物館)
	26	新居浜子ども食堂中村松木店① [同実行委員会]
	3	第 3 回別子銅山を読む解説講座 「住友の歴史から」(講師：坪井利一郎氏) [別子銅山記念図書館]
	10	ペルー駐日大使、チンチェロ市長の別子銅山視察ご案内 [新居浜市]
	17	愛媛県立西条高等学校 PTA 研修旅行 別子銅山案内 (東平～端出場) [同校]
	17	惣開公民館 観月会 [同公民館]
	19	大ペルーアンデス文明展～東洋のマチュピチュの麓にて～見学 [新居浜市] (あかがねミュージアム)
	23	角野小学校 5 年生 別子銅山登山事前学習 出前授業 100 名 [新居浜市立角野小学校]
	25	東予テクノクラブ地域研修 別子銅山案内 (東平～端出場)
	30	第 4 回図書館学習会「別子銅山 近代化産業遺産の旅～端出場トラベラー～」
10	30	新居浜子ども食堂中村松木店②
	1	読売テレビ「遠くへ行きたい」竹下景子さん別子銅山案内 [テレビマンユニオン]
	2	夏井いつき 俳句 ing Working in 東平 [新居浜市観光協会]
	6	第 40 回 ESD 中学高校連携事業「別子銅山を学ぼう！」市立北中学校 1 年生 90 名
	8	別子銅山モニターツアー 愛媛大学学生 32 名 (外国人 10 名) + 教員 4 名 [新居浜市・愛媛県東予地方局]
	14	第 41 回 ESD 中学高校連携事業「別子銅山を学ぼう！」市立東中学校 1 年生 134 名
	21	第 42 回 ESD 中学高校連携事業「別子銅山を学ぼう！」市立川東中学校 1 年生 191 名
	22	第 2 回ツガザクラ保護活動 (銅山峰ヒュッテまで登山、雨天により中止)
	25	ライフスタディⅡ課題研究 愛媛県総合科学博物館フィールドワーク

月	日	内 容
10	27	第 5 回図書館学習会「別子銅山 近代化産業遺産の旅～端出場トラベラー（観光坑道）～」
	28	新居浜こども食堂中村松木店③
	30	別子山自然フォーラム [同実行委員会]
11	1	第 52 回文化祭「東北視察研修報告」「ふる里新居浜の誇り発見物語」パネル展示
	6	別子銅山図見学 [別子銅山記念館]
	12	第 4 回別子銅山を読む解説講座「別子山村郷土誌と別子山村史」（講師：坪井利一郎氏）
	14	平成 28 年度 ESD 環境教育プロジェクト事業中間報告会（本校校長室） ESD コーディネーター 鳴門教育大学特命教授 近森憲助先生
	15	ライフスタディⅡ課題研究 星越地区フィールドワーク
	17	東京大学大学院教育研究科 牧野篤先生による講演及びスキルを磨く研修
	19～	第 19 回日本ボランティア学習学会 in TOKYO（亜細亜大学）[同協会]
	20	アレックディクソン賞受賞式 受領代表：ユネスコ部部長 寺尾遥
	23	『東平索道展～東黒・東端索道～』見学 [新居浜市]
	25	新居浜こども食堂中村松木店④
12	6	第 1 回百年の計、新居浜シビックプライド創造委員会 [首長部局等との協働事業]（本校会議室）
	16	高校生と一緒に別子銅山を探検しよう！in 角野 角野小学校 6 年生 114 名 [角野公民館]
	16	新居浜こども食堂中村松木店⑤
	18～ 26～	ユネスコ部台湾視察交流 [新居浜ユネスコ協会]（国立鹿港高級中学・九份等）（～21） 鉱石の道推進協議会先進地視察（兵庫県但馬、朝来行政職員）（～27）
1	4	大鉾の唄奉納式（別子銅山記念館）[住友グループ]
	7	長崎大学大学院工学研究科 小島健一氏別子銅山視察案内
	17	東予地区高等学校 PTA 会員研修会
	19	ライフスタディⅡ課題研究発表会 [ESD 環境教育プロジェクト成果発表会、「ユネスコ部台湾現地視察交流」事業報告会]
	24	「平成 28 年度地域とともに生き地域とともに歩む高校生育成事業」 プレゼンテーション審査会 [愛媛県教育委員会]（松山にぎたつ会館）※採択
	27	新居浜市立惣開小学校 ESD 学習発表会見学 [同校]
	27	新居浜こども食堂中村松木店⑥
	28	とくしま環境フォーラム・講演「環境問題と闘った先人たちの知恵に学び行動する」 [徳島県・NPO 環境首都とくしま創造センター・徳島新聞社]（徳島市シビックセンター）
2	3	産業社会と人間『別子銅山 近代化産業遺産フィールドワークⅠ～旧広瀬邸・広瀬歴史 記念館見学～』事前学習会（以下、産業社会と人間フィールドワークⅠ）
	5	地域教育東予ブロック集会第 1 回大会 [同実行委員会]（西条市中央公民館）
	9	産業社会と人間フィールドワークⅠ 1 年次生 116 名
	11	平成 28 年度第 2 回 ESD フェスティバル [新居浜市教育委員会]（あかがねミュージアム）
	12	第 27 回新居浜グローバルパーティー [同実行委員会・SGG]（ウィメンズプラザ）
	14	平成 28 年度地域を担う心豊かな高校生育成事業 [愛媛県教育委員会] 「地域活性化フェスタ」（愛媛県生涯学習センター）
	16	第 2 回百年の計、新居浜シビックプライド創造委員会（本校会議室）
	16	平成 28 年度 ESD 環境教育プロジェクト成果報告会（本校会議室）
	17	新居浜こども食堂中村松木店⑦
	18	第 5 回別子銅山を読む解説講座「旧別子案内」（講師：坪井利一郎氏）
3	2	「四国地方 ESD 活動支援センター（仮称）」設置準備委員会（高松）[四国 EPO]
	4	「吉岡銅山を世界遺産にする会」別子銅山視察ご案内
	7	「書きそんじハガキ・キャンペーン」ご協力ありがとうございました！

## 1 はじめに

本校は四国初のユネスコスクールとして認定を受け 6 年目を迎え、ユネスコスクールとしての意義の理解と ESD 活動への取組みをさらに深めて行く時期に来ていると思います。

そのような中、今年度は文部科学省及び公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）主催によるサステイナブルスクールとしての認定を受けることができました。今後 3 年間、拠点校としての役割を担わせていただきます。

また、愛媛県教育委員会の主催する「ESD 環境教育プロジェクト事業」の指定を昨年度に引き続き受け、今年度はこれまでの活動に加えて、ツガザクラ（銅山峰に自生する高山植物で、群生地としては日本の南限であり、県天然記念物、絶滅危惧種）の保護活動に地域の山岳会の方々と連携した活動も開始しました。生徒会活動の中にユネスコ委員を創設し、より多くの生徒が ESD 活動に関われるチャンスもできました。

さらに、文部科学省主催による「首長部局等との協働による新しい学校モデルの構築事業」を新居浜市が委託を受け、実践校は本校として取組ませていただくこととなりました。このことは、市行政と県立高校との新たな連携を創出することにもつながり、本校の果たす役割の大きさがますます広がることとなっています。

## 2 主な活動内容について

### （1）遠足「マイントピア別子端出場ゾーン」事前学習会【4月13日】

本校会議室において、1 年次生 117 名を対象に、明日実施予定の遠足の事前学習会を行いました。講師を務めたのは、3 年次のユネスコ部部長寺尾遥さん、副部長の谷下華さん、副部長の永易舞さんの 3 名です。

入学間もない 1 年次生は、緊張感のある中、真剣な面持ちで取り組みました。そして、本校からマイントピア別子端出場ゾーンまでの道中のルートや安全の確認、途中に点在する別子銅山の近代化産業遺産、観光坑道内について、クイズやとっておきのエピソードなども交えて、バーチャル遠足を楽しみながら学びました。明日の遠足では、現地を実際に歩きながら、今日学んだことを思い出しながら、安全に楽しく高校初めての遠足を楽しんでほしいと思います。



事前学習の様子



講師を務めた永易さん谷下さん寺尾さん（左から）

### （2）1 年次生遠足「マイントピア別子端出場ゾーン～旧住友鉱山鉄道下部線跡経由～」【4月14日】

1 年次生 114 名は、クラスの親睦と融和を図るとともに歩く喜びを体験しつつ、地域の歴史的遺産である別子銅山について理解を深めることを目的に、学校からマイントピア別子端出場ゾーン（以下、マイントピア別子）へ遠足を行いました。

途中、旧住友鉱山鉄道下部線跡（通称：下部鉄道跡）を住友金属鉱山別子事業所の許可をいただき、通行させていただきました。今回の遠足に合わせて、住友金属鉱山により下部鉄道跡は下草が刈り取られ、安全に通行できるように整備をしていただいていた。私たちは感謝の気持ちで通行させていただきました。

切り通しではダイナマイトで岩を砕いた跡が残っていたり、120 年以上前にレンガで造られたトンネルを通るなど、明治の風を身体に感じ、当時の人たちに思いを巡らしながら楽しく元気に



歩きました。そのことで、予定よりずいぶん早い1時間弱で到着することができました。

マイントピア別子では、2班に分かれ、観光坑道の見学と砂金採り体験を交代で行いました。観光坑道では、前日学習したことを思い出しながらか見学しました。特に、遊学パークでは、索道の乗車や削岩機、仲持ち、水汲みなど様々な鉱山に関する先人の知恵や努力の数々を楽しく学ぶことができました。その後、芝生広場で昼食を取ったりレクリエーションで身体を動かすなど、仲間とともに充実した時間を過ごし、高校初めての遠足を満喫していました。



当時のままのトンネルを通り抜けた様子



観光列車に乗っている様子

### (3) 愛媛新聞社企画「子ども記者が行く！」【4月15日】

愛媛新聞社が主催し、小学生が新聞記者となり地域の情報を取材して新聞記事を作成する企画が行われました。新聞記者となったのは、新居浜市立惣開小学校6年生男女4名ずつの8名の児童です。今回のテーマは「産業遺産」でした。

そこで、ユネスコ部の部員が学校周辺にある別子銅山の近代化産業遺産を案内させていただきました。案内したのは、かつて住友鉱山鉄道下部線に使用され、現存する建物としては唯一の旧星越駅舎、東洋一といわれた星越選鉱場の跡、旧星越トンネル、外国人技術者のために建設された旧西洋社宅、2年前に新居浜市に寄贈された旧住友共電社長宅などでした。それぞれの場所で、クイズやとっておきのエピソードなども交え、特にこの地域にゆかりのある鷲尾勘解治の手作り紙芝居なども披露して、楽しく学びました。小学生と高校生が共に学びの絆を結ぶ貴重な機会となりました。

なお、今回取材し制作した記事は、子どもの日に合わせて5月5日に愛媛新聞に掲載されます。小学生から見た高校生の案内がどんな記事になるのか楽しみです。



星越駅舎の前で説明している様子



星越選鉱場跡で説明している様子

### (4) ライフスタディⅠ「別子銅山近代化産業遺産フィールドワークⅡ事前学習会」【4月22日】

本校会議室において、2年次生120人を対象に5月12日に開催予定のフィールドワーク事前学習会を行いました。講師を務めたのは、2年次生のユネスコ部員7名でした。

本校は別子銅山の近代化産業遺産の学習を特色としたユネスコスクールです。1年次生では、遠足でマイントピア別子端出場地区、また「産業社会と人間」では、旧広瀬邸や広瀬歴史記念館

へフィールドワーク学習を行っています。

今回は、2 年次生の総合的な学習の時間「ライフスタディⅠ」において山根地区へフィールドワークを行います。目的は、新居浜市の礎である別子銅山の近代化産業遺産について理解を深めること。シビックプライドを育むこと。ゴミ拾いや雑草の除去など環境整備を通してボランティア活動にも積極的に取り組むこととしています。今年で 2 年目となりました。事前の学習内容は、バーチャルでフィールドワークを行いながら、ルートや安全の確認、道中に見える遺産についての解説をしました。また、実際のフィールドワークでお世話になる「えんとつ山倶楽部」の皆さんの活動のご紹介もさせていただきました。今日の事前学習を通して、早く行ってみたいとの声が多く聞こえてきて、楽しみにしている様子でした。。



事前学習会の様子



山根収銅所の坑内排水処理のしくみを実験で示している様子

#### (5) ユネスコ委員会発足！【4 月 25 日】

本年度より生徒会活動として新たにユネスコ委員会を発足しました。

各クラスから 2 名の生徒が委員として選出され、18 名のユネスコ委員が誕生しました。

そして、「ユネスコボード」として校内 2 か所に掲示板を設け、ユネスコや ESD 活動の啓発、ボランティア活動の募集などを開始しました。

本校は 2010 年四国初のユネスコスクールとして歩み始め、別子銅山の近代化産業遺産をテーマとして ESD 活動を行っています。その活動のけん引をユネスコ部が担ってきましたが、今後は、より多くの生徒がユネスコ活動に出逢える場を提供し、校内にその輪をさらに広げて行きます！今日その一步を踏み出しました。



廊下に新設されたユネスコボード

#### (6) 総合的な学習の時間「ライフスタディⅡ」課題研究

『あかがねの道～別子銅山の先人達の生き様から ESD を学ぶ～』東平地区①【4 月 26 日】

3 年次生の総合的な学習の時間「ライフスタディⅡ」において課題研究が行われました。

総合分野の今年度のテーマは『あかがねの道～別子銅山の先人達の生き様から ESD（持続発展可能なまちづくり）を学ぶ～』です。5 名の生徒が取り組みを行います。

初めてのフィールドワークの場所として選んだのは、初夏に向かおうとする東平地区でした。晴天に恵まれ、ちょうどツツジの花が満開を迎える中、インクライン跡、東平貯鉱庫跡、索道基地跡などを見学しました。また、上部鉄道跡を駐車場に設置された透明ボードを使って実際の山に重ね合わせて確認しました。その後、東平歴史資料館に移動し、当時の写真や地形ジオラマを見学しました。標高 750 メートルから眺めた雄大な景色や別子銅山の近代化産業遺産を目の当たりにして、当時の様子に思いをめぐらして、先人の偉大さに感動していました。今日の学びをまとめ、次回のフィールドワークがさらに充実したものになるようにつなげていきます。。





今年は男子 5 名が選択



貯鉱庫の石組みの迫りに圧倒されている様子

#### (7) 第 1 回旧別子地区研修登山【4 月 30 日】

快晴の空の下、ミツバツツジの紫の花が銅山を彩る中、新入部員および現部員の研修と中学校出前授業のための情報収集などを目的に、今年度初めて旧別子地区の研修登山を行いました。

登山客も多く訪れ、すれ違うたびに交わすあいさつの声が銅山に大きく響いていました。

圓通寺小足谷出張所（えんつうじこあしたにしゅっちょうしょ）跡をはじめ、小足谷醸造所跡、小足谷接待館跡、東延斜坑（とうえんしゃこう）、歓喜坑、などを見学しました。

道中にある別子銅山の産業遺産を部員それぞれが解説して、お互いに理解を深めました。また、特に今回は、小足谷疎水坑跡や小足谷収銅所跡、病院跡などこの時期にしか調査に入れない場もあり、初めて目にする先人たちの築き上げた近代化の遺構を目の当たりにして感動の声をあげていました。

さらに、ダイヤモンド水広場には環境保全のためにバイオトイレが新しく設置（平成 27 年 10 月）されていて、快適な登山環境も整備されていました。

そして、銅山越からは少しかすみがかかっていたものの、新居浜市街地、瀬戸内海に浮かぶ四万島も展望でき、登山の疲れを一気に吹き飛ばすことができました。

全行程 8 時間 30 分にも及ぶ登山研修でした。それでもまだ訪れることができなかった場所もあり、また機会を作りたいと思います。今日の学びや感動を多くの人に伝え、別子銅山の素晴らしさを知っていただけるよう、この 1 年も部員一同頑張っていきます。



小足谷接待館について解説している様子



標高 1300m の銅山越で記念撮影

#### (8) 18 歳からの選挙権～憲法から切り拓く自分の未来～【5 月 3 日】

あかがねミュージアムの多目的ホールを会場に、日本青年会議所の愛媛ブロック協議会が主催し、憲法を考える催しがありました。

県内の高校生や一般市民の方約 150 名が参加しました。

ユネスコ部も〇×クイズやグループ・ディスカッションに参加し、その中で結婚について考える人権劇を上演させていただきました。特に人権劇は、大変な緊張の中でしたが、みんなで力を合わせてやり抜くことができ、会場の皆さんより温かい拍手をいただき、とても達成感と自身の



成長を感じることができました。

憲法は難しくて馴染みが少ないとの印象を持っていましたが、身近な話題を題材にしたクイズや愛媛大学法学部総合政策科教授の井口秀作先生から分かりやすい解説をいただき、憲法が身近な存在に感じられるようになりました。また、井口先生の「憲法は空気のようなもの」とのお言葉がとても印象に残りました。

さらに、多様な年齢の方とのグループ・ディスカッションを通して、他人の意見を聞いたり、自分の意見を発表する機会もあり、貴重な体験になりました。今後は、このことをきっかけに、憲法をより深く学び、選挙への関心を高めて行きたいと思います。



憲法に関する〇×クイズの様子



人権劇の様子

#### （９）別子山地区取材【５月５日】

ユネスコ部では、日頃お世話になっている別子山地区の方々の所へ、年度初めのごあいさつと新入部員の研修を兼ねて訪問させていただきました。

５月晴の下、始めに訪れたのは住友林業の森「フォレスターハウス」でした。ちょうど山桜が満開で、爽やかな風の中、新緑に包まれてとても心地よかったです。伊庭貞剛没後 75 周年記念碑を見学しました。「五カ年の山振り返れば雪の山」という伊庭の詩を見ながら、伊庭の功績について学習しました。

そして、次に訪れたのは南光院本坊圓通寺でした。ご住職の妻鳥良全さんにごあいさつさせていただいた後、境内や大切に育てられている山野草の庭などを案内していただきました。昨年度の成果のご報告と今年度の志を新たにさせていただきました。



伊庭貞剛没後 75 周年記念碑を見ている様子



妻鳥良全さんに境内を案内していただいている様子

続いて、クマガイソウの観賞のため、近藤さん宅を訪問させていただきました。クマガイソウの開花が今年は一週間ほど早かったため、少し終わりにかけていた花もありましたが、幻想的で美しい花を咲かせてくれていました。クマガイソウをご夫婦で守り育てられている近藤貞美さんにごあいさつさせていただきました。この時期に花を咲かせるための大変さやお客さんのおもてなしのために見えないところでさまざまな苦勞をされていることなどをお聞きし、花を観賞させていただく感謝の気持ちをより一層深く心に刻むことができました。

ゆらぎの森で昼食を取り、帰路の途中、筏津坑口を見学しました。1973 年 3 月 31 日、ここで

の銅鉱石終掘により別子銅山が 283 年間の歴史に幕を下ろしたことを改めて学び直し、当時の様子に思い巡らすことができました。

そして最後は、日浦通洞を訪れました。この場所は、新居浜側と別子山側を結んでいた唯一の交通機関であった「かご電車」が行き来していた所でした。説明板の当時の写真と現在の様子を見比べると、当時のままの建物が現存していることが分かり驚きと感動がありました。

今日の取材活動を通して、今年度の活動へ向けた新たな原動力をいただくことができました。お世話になっている皆様に感謝の気持ちを忘れず、部員みんなが元気で楽しい充実した 1 年間となるよう頑張っています。



クマガイソウを觀賞している様子



近藤貞美さんとの会話の様子

(10) 第 38 回 ESD 中学高校連携事業「別子銅山を学ぼう！」新居浜市立船木中学校【5 月 6 日】



クイズも取り入れ楽しく学んでいる様子



勇者のリーダーに宝箱を開けてもらっている様子

ユネスコ部では今年度初めてとなる中高連携事業を新居浜市立船木中学校体育館において 1 年生 59 名を対象に行いました。

今回から大きく変わったのは、これまでのプレゼンテーションを大きくバージョンアップしたことです。

『BESSHI QUEST ～山・浜・島を巡る冒険～』と銘打って、中学生の皆さんが勇者となり、別子銅山のバーチャル登山の冒険の旅に出るという設定です。また、手書きの探検マップや手作りの宝箱、さらには宝箱を開けるカギなど、様々なアイテムを用意しました。そして、別子銅山の歴史や近代化産業遺産、登山上の安全など、わくわく感やドキドキ感いっぱい楽しく学べるよう工夫しました。

今日はその初めてのお披露目ともなりました。どのような展開になるか期待と不安の混じった中で始まりましたが、旅の始め、勇者のリーダー役を決める際にすぐ立候補できる積極的な態度に感動しました。おかげでスムーズなスタートを切ることができ、良い流れをつくることができました。

また、クイズや質問にも挙手をしてどんどん答えてくれました。

一方、私たちの方は、準備や練習を充分行ってきたつもりでしたが、実際に実施してみると、お互いの連携の取り方やマイクの受け渡し、BGM の音量、中学生に登場してもらう際の誘導や



サポートの方法、場の盛り上げ方など、不十分な点が多く目立ってしまいました。

しかし、中学生の皆さんの熱心な取り組みのおかげで、大きなトラブルも無く終えることができました。

今日の多くの課題をしっかりと検証し反省して、今後のステップアップにつなげて行きます。中学生の皆さんは、今日の学習を実際の登山の際に役立てていただき、安全で楽しい登山となりますよう祈念しています。船木中学校の皆様には、私たちに貴重な機会をいただき、心より感謝申し上げます。

#### (11) 総合的な学習の時間「ライフスタディⅠ」

別子銅山・近代化産業遺産フィールドワーク in 山根エリア【5月12日】



山を登って行く様子



全員で登頂記念撮影



えんとつ山倶楽部の妻鳥敏彦さんの説明の様子



山から市街地を展望している様子

工業都市新居浜の礎である別子銅山の近代化産業遺産について現地を訪れることで、先人たちの想いに触れ、シビックプライド（ふるさとへの愛着や誇り・自信）を育てることを目的に、新居浜南高校2年次生120名が、総合的な学習の時間「ライフスタディⅠ」の授業の一環として、学校周辺である山根エリアをフィールドワークしました。

昨年に引き続き、えんとつ山倶楽部（代表：直野菅男さん）のご協力をいただき2回目の実施となりました。

学校を徒歩で出発し、クリーンアップ運動としてゴミ袋を片手にごみ拾いをしながら、遊歩道となった旧住友鉱山鉄道下部線跡を歩き、現役の坑内排水路、旧山根駅のプラットホーム跡など横目に、山根収銅所下、生子橋を渡り、生子山（しょうじやま）〔通称：えんとつ山〕入り口に到着しました。

ここからは、えんとつ山倶楽部の皆さんが出迎えてくださり、案内していただきながら、旧山根製錬所跡の煙突がある頂上を目指して登りました。

五月晴れの下、爽やかな風の吹く山頂からの景色は、新居浜市街地や遠く瀬戸内海の島々まで展望でき、感動の声が上がっていました。

山頂では、えんとつ山倶楽部の直野代表からごあいさついただき、倶楽部の活動の概要やえんとつ山へかける思いなどについてお話いただきました。そして、倶楽部の皆さんから自己紹介を

いただきました。その後、妻鳥俊彦さんから旧山根製錬所跡の煙突の歴史的意義やえんとつ山周辺の環境保護活動についてご説明をいただきました。

その後、奥の宮からの景色を展望し、環境整備のビフォーアフターを当時の写真パネルと現在を見比べながら下山しました。

フィールドワークを終えた生徒からは、初めて登った山からの景色・レンガ煙突の美しさに感動したことやえんとつ山倶楽部の皆さんのこれまでのご苦勞に対する感謝の気持ち、別子銅山の世界文化遺産への期待、ふるさとに戻って来たい想いなども聞かれ、充実したフィールドワークとなりました。

#### (12) 「第 39 回 ESD 中学高校連携事業「別子銅山を学ぼう！」新居浜市立泉川中学校【5 月 19 日】

今年度 2 回目となる ESD 中高連携事業を新居浜市立泉川中学校体育館において 1 年生 73 名を対象に行いました。

明日（5 月 20 日）の登山を控えて、直前の登山事前学習となりました。

皆さん真剣な眼差しで私たちの説明に耳を傾けてくれました。また、クイズの出題や質問などにも積極的に取り組み、時折笑いも出るなど、楽しい学習会となりました。

ユネスコ部員の中で 5 名が泉川中学校出身者でもあり、先輩として活躍の様子を後輩に見てもらう絶好の機会ともなりました。また、中学校の先生からは、登山も一緒にでして欲しいとのうれしいご要望までいただくほどでした。

ところで、新しくなったプレゼンテーションの 2 回目の実施を行い、前回よりはずいぶんスムーズに進行できていましたが、BGM の音量が小さいこと、マイクの受け渡しの順番に間が空いてしまうことなど、まだ課題が残りました。今後、さらに改善を図って行きます。

中学生の皆さんは、今日学んだことを明日早速実践して、安全で楽しい登山になることをユネスコ部一同祈念しています。また、私たちに貴重な発表の機会をいただいた泉川中学校の皆さんに心より感謝申し上げます。



さあ、冒険の始まりだ～！



積極的に参加してくれている様子

#### (13) 『ツガザクラ保護活動』 事前研修会～環境保護に向けた「私たちの百年の計」～【5 月 19 日】

本校では今年度より愛媛県の天然記念物である希少な高山植物であるツガザクラの保護活動に取り組もうと、元愛媛県山岳連盟自然保護委員長である今北貞雄さんにご来校いただき研修会を行いました。

今北さんとのご縁は、平成 21 年（2009 年）に日本山岳協会自然保護委員総会の愛媛県大会が新居浜市で開催され、当時の情報科学部が別子銅山の学習成果の発表や東平～旧別子山地区の登山案内をさせていただいたことから始まりました。

今年になり、今北さんの所属されている憧山会（どうざんかい）が、ツガザクラの保護活動を 20 年の長きに渡り継続されたことが高い評価を受け、「第 12 回三浦保環境賞」の大賞を受賞されたことを知りました。その紹介番組を視聴した際、大きな課題となっていたのが会員の高齢化でした。そこで、私たち高校生が何かお手伝いできないかと憧山会の皆様にご相談させていただいたところ、この度の保護活動へ向けた活動の一步となりました。

ツガザクラの花が見ごろを迎えている 5 月 22 日に銅山峰に登り、保護柵の整備や定点観測などを行います。



今日は、今北さんからツガザクラの生態について、また保護活動の経緯や登山の魅力なども学ぶことができました。これから私たちの別子銅山の環境保護に向けた「百年の計」の始まりです。



憧山会ツガザクラ後担当の今北貞雄さん



ツガザクラの生態について説明いただいている様子

**(14) 第1回ツガザクラ保護活動【5月22日】**



憧山会のみなさんと峰地蔵前にて記念撮影



憧山会会長の西俊明さん



保護柵の杭打ちの様子



植生変化を撮影している様子

ユネスコ委員会およびユネスコ部は、憧山会の西俊明会長さんを始め、先日の事前研修会でご指導くださった今北貞雄さん、そして他6名の会員の皆さんにご指導いただき、別子銅山・銅山越えでのツガザクラ保護活動を行ないました。

ちょうど山野草が開花の時期を向かえており、憧山会の方々から草花や木々の名称、特徴などを教えていただき、自然観察も行ないながらの楽しい登山となりました。途中休憩も挟み、約2時間余りで銅山越え（約1300メートル）に到着しました。

休憩のタイミングや登山のペース等を上手にご指導いただいたおかげで、普段私たちが登るときとは全く違って、楽に登ることができました。

そして、憧山会の方々に丁寧なご指導をいただきながら、ツガザクラの保護活動を行いました。



活動内容は、ツガザクラの定点観測、土の採取、保護柵の整備でした。

役割ごとに班を編成して作業を行いました。ツガザクラの定点観測では、以前撮影した写真と現在を見比べながら撮影位置を確認して同じ位置での撮影を行ったり、基準となる杵を使用して全体や部分での植生の変化を撮影しました。少しずつツガザクラが増えている所もあれば、枯れていたり、他の植物に追いやられたりするツガザクラの現状を見ることができました。

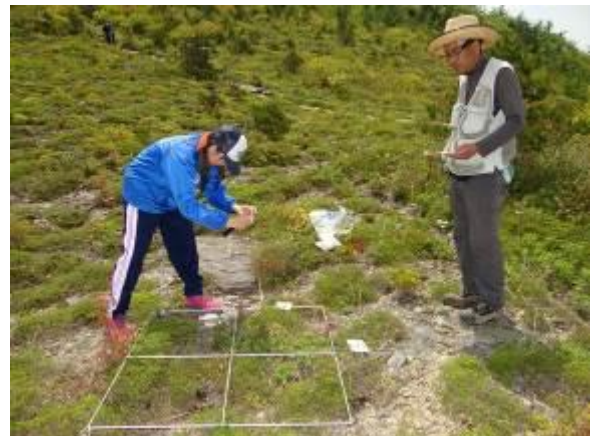
土の採取では、ガザクラの育つ環境にもともと土が少ない場所が多いことから、スコップを使用しての採取作業に苦労している様子でした。

保護柵の整備では、ロープの張り具合を調整したり、慣れない杭打ちに悪戦苦闘していました。また、作業範囲が広く、標高差が 100 メートル近い所もありました。

午前と午後を合わせて約3時間かけての活動となりました。作業を終えて憧山会の皆さんから、高校生のおかげで助かったとのご感想をいただき、少しでもお役に立てたことがとてもうれしかったです。本日の成果について、改めて研修会を行い、さらに学習を深めて行きます。好天に恵まれ初夏に向かう銅山越えには多くの登山客で賑わっていました。次回は、晩秋に保護活動を予定しています。



ロープの張り具合を調整している様子



植生変化を撮影している様子



ツガザクラ



ツガザクラの群生は銅山峰が日本の南限

#### (15)「ライフスタディⅡ」課題研究

『あかがねの道～別子銅山の先人達の生き様からESDを学ぶ～』山根地区【5月24日】

総合分野では2回目のフィールドワークとして山根地区を訪れました。

訪れた場所は、山根グラウンド、大山積神社、別子銅山記念館、山根収銅所でした。

事前に各自が分担して学習した内容を発表し合いました。説明を聴きながら、現地で先人たちの偉業を肌で感じ取って行きました。

また、記録写真もこだわりながら熱心に撮影していました。また、別子銅山記念館では、屋根に植えられたサツキがちょうどピンク色の花を咲かせており、その様子を一目見ようと大勢の方たちが訪れていました。近代化産業遺産だけでなく、自然の素晴らしさにも触れることができ、ますます興味を持つことができていました。



別子銅山記念館について説明している様子



大山積神社について説明している様子

#### (16) 産業社会と人間

「新居浜の過去・現在・未来～新居浜の歴史と地方創生～」【ユネスコ部出前授業】【5月26日】

本校会議室を会場に、「産業社会と人間」（1年次生 117名）において、工業都市新居浜の礎となった別子銅山の歴史について出前授業を行いました。

別子銅山をバーチャルで登山して近代化産業遺産を巡り、途中様々な困難にも立ち向かい、それらを解決しながら、頂上（銅山越え）にある宝箱を目指しました。

ところで、中学校での別子銅山を中心とした「ふるさと学習」が5年目を迎え、市内出身の生徒は既に別子銅山の学習を行い、何らかの形で別子銅山の登山等を経験しています。その際に、ユネスコ部の出前授業で一度は学んでもらった内容ですが、今回はこれまでの内容を一新し、2回目の学習となる生徒、さらには市外通学生で初めての学習となる生徒にも分かりやすく楽しんで学習してもらえよう工夫しました。

ユネスコ部員は、今年度の中学校出前授業において、既に2回実施をしており、これまでの反省に立っての実施となりました。課題となっていたBGMの音量やマイクの受け渡しなど、うまくこなしながら設定した時間内にしっかりと納めることもできました。途中、笑い声が飛び出すなど、楽しく学んでもらえたと思います。

最後に、宝箱から飛び出した先人のメッセージが村上敏之校長先生のお声というサプライズがあり、教室が驚きと感動に包まれました。今日の学習を機に、さらに新居浜に関心を持ってほしいと思います。



1年時次生に参加してもらっている様子



校長先生のメッセージが流れている様子

#### (17) 産業社会と人間「新居浜の過去・現在・未来～新居浜の歴史と地方創生～」

【新居浜市企画部地域創生推進室 室長 藤田康氏 講演】【5月26日】

今年度、本校では『首長部局との協働による新たな学校モデル構築事業』（文部科学省主催、新居浜市受託、本校実践校）に取り組みを始めました。

本日6限目、本校会議室を会場として、「産業社会と人間」（1年次生 117名）において、5限目の新居浜の歴史についての学習を踏まえ、現在の新居浜を知り未来について考えることを目的



に、新居浜市企画部地域創生推進室の藤田康室長さんを講師にお迎えして「新居浜市における地方創の取り組みについて」と題してご講演をいただきました。

日本の現状や国の取り組みから紐解いていただき、新居浜市の人口ビジョン、総合戦略について分かりやすくお話をいただきました。

「これからも新居浜市に住み続けたいか？」の質問に対しては、7割が住み続けたい、分からない2割、続けない1割との回答でした。「新居浜の人口減少を食い止めるためには何が必要か」の質問に対しては、「現在のものを活かした観光地を増やして人を呼び込む」等のアイデアが出ました。

最後の代表生徒の謝辞では、「講話を通して改めて新居浜について知ることができ、まちの将来についても考えることができた」等の感想が聞かれました。

今後、行政とさらに連携を図りながら、本校の目標である「地域を支える人づくり」を目指して行きます。



新居浜市企画部地域創生推進室 室長 藤田康さん



藤田室長さんの質問に挙手する生徒の様子

#### (18) ライフスタディⅠ「主権者教育～話す・聞くディスカッション～」

【リージョナルデザイン株式会社代表取締役 安孫子尚正氏 講演】【5月27日】



リージョナルデザイン株式会社  
代表取締役 安孫子尚正さん



相互評価を行なっている様子

今年度、本校では「主権者教育」研究指定校（愛媛県教育委員会）として取り組みを行っています。

本校体育館にて、2年次生120名が総合的な学習の時間「ライフスタディⅠ」を利用して、リージョナルデザイン株式会社の代表取締役である安孫子尚正さんを講師にお迎えして「聞く・話すディスカッション」と題してご講演いただきました。

始めに、「自分の話す場面」について捉えることやディスカッションの場でのルール、ファシリテータの役割などについてご説明いただきました。そして、1グループ5人程度の班を編成し、事前に準備してきた自己紹介や自己主張「自分のテーマ」について1分間スピーチを行い、ディスカッションしていきました。

生徒たちは、恥ずかしがりながらも自分の意見を懸命に話したり、友人の話をしっかり聞こう



とする様子が見られました。

まとめとして、評価シートを記入し、お互いのいいところを中心にディスカッションをしました。

安孫子さんからは、「話すことは、人に認めてもらうことを意識すること。」「話を聞いて受け止めて対応力をつけること。」「限られ時間を有効に活用すること」「やればやるほど上手になる」などアドバイスをいただきました。

最後の生徒謝辞では、「お互いにいい意見を出し合い充実した時間をすごせたことや日ごろからのコミュニケーションを大切にしたいとの思い、今日の経験をこれから活かしていきたい」などの感想がありました。

#### (19) 第1回図書館学習会「別子銅山 近代化産業遺産の旅～旧別子トラベラー～」【5月27日】

図書館での別子銅山に関する学習会は2年目を迎えました。

昨年よりさらに学習内容を掘り下げようと、今年度の主なテーマは『別子銅山の近代化産業遺産の隠された魅力を発見する旅』としました。

広域に渡る別子銅山の近代化産業遺産をいくつかのエリアに分けて紹介していきます。

参加者は旅人として仲間とともにグループになって旅をしながら学びを深めていく仕掛けです。また、グループ内での話し合いや進行がスムーズになるよう、各グループにはファシリテータ役としてユネスコ部員を配置しました。

今回の参加者は、図書委員を中心に28名でした。

旧別子エリアにおけるユネスコ部員お勧めの近代産業遺産について案内して行きました。途中でクイズの出題やプリントを配布して穴埋め問題を解答するなど、グループで協力して楽しみながら学習が進められていました。

昨年の学習会と比べると、準備にかなりの時間を費やし、グループ学習を取り入れ、発表や学習プリントの使用など、アクティブラーニングの手法も導入するなど、新しい工夫も取り入れていました。

ただ、もう少し進行がスムーズにできるとよかったですと思いました。次回は、その課題を解決し、さらにレベルアップした学習会になることを期待しています。



班の代表者が解答を板書に行っている様子



学習のまとめや感想を書いている様子

#### (20) 第1回別子銅山を読む解説講座

「住友の歴史（上・下）」【講師：元別子銅山文化遺産課長 坪井利一郎氏】【5月28日】

新居浜市別子銅山記念図書館において、今年度初めての別子銅山を読む解説講座が開催され、本校からはユネスコ部、図書委員の11名が参加しました。

本講座も今年で7年目となりました。

今回のテーマは「住友の歴史（上・下）」（住友資料館）でした。講師は元別子銅山文化遺産課長の坪井利一郎さんでした。

これまでは別子銅山開坑三百年を記念して刊行された「住友別子銅山史」が別子銅山の正史といわれてきました。しかし、平成25年、26年と続いて刊行された「住友の歴史」により新しい史実が分かってきたことについて、坪井さんが分かりやすく解説してくださいました。

特に、従来考えられていたことと異なるポイントを4つご紹介くださいました。

1 つ目は、新居浜口屋への新居浜道は 1702 年（元禄 15 年）といわれてきましたが、1703 年であり、1 年ブランクがあったこと。

2 つめは、1964 年の別子大火災の対応として、立川銅山からの向かい火は嘘であったこと。

3 つめは、蘭塔場は造られた当初から別子大火災の犠牲者全員の墓地とされていたが、当初は別子支配人をはじめ上層部の 4 人の墓地は歓喜・歓東坑下の沢にあり、その墓碑を 1878 年（明治 11 年）になって、広瀬幸平が蘭塔場に上げたこと。

4 つ目は、高橋製錬所が一時停止したのは技術の未熟さではなく、世界の銅価格の下落によることでした。

最後に坪井さんは「本を自分で読むことの大切さ」を強調されました。今年も別子銅山関連の本がたくさん紹介されます。お話をきっかけに、どんどんと本を読んでいきたいと思います。なお、今日ご紹介いただいた本は本校図書館の蔵書にもなっています。



元別子銅山文化遺産課長の坪井利一郎さん



講演の様子

#### (21) 東予信用金庫本店での「石見銀山現地研修の活動パネル展」開催【6月1日～7月4日】

東予信用金庫本店営業部（新居浜市中須賀町 1-6-37）のロビーにてユネスコ部の活動パネル展を開催しました。

パネルの内容は、一昨年前に現地研修として訪れた石見銀山です。「石見の歴史をモニタリング～世界遺産登録の謎を探れ!!～」をテーマに活動した内容をパネルや灰吹の実物など約 30 点を展示してご紹介しています。

東予信用金庫のご厚意で、昨年に引き続き 2 年目の活動パネル展示となりました。



展示の準備の様子



ロビー展示の様子

#### (22) スタディーツアー事前現地研修【6月4日】

ユネスコ部では、一週間後に迫った第 9 回あかがねの道スタディーツアーに向けて、東平地区と端出場地区において現地での事前研修を行いました。

案内の順序や時間、内容の確認、案内者の立ち位置、補助の分担など、実戦しながら研修を行いました。

途中、観光客にご協力いただきながら練習させていただく場面もありました。



今後は、研修を通して出てきた課題や成果をお互いに共有して、最高のおもてなしで、最高の旅を楽しんでいただけるよう、しっかりと準備を行ってまいります。

今回も観光坑道での研修において、マイントピア別子に大変お世話になりました。



東平でのガイド研修の様子



観光坑道内での研修の様子

### (23)「総合的な学習の時間「ライフスタディⅡ」課題研究

『あかがねの道～別子銅山の先人達の生き様からESDを学ぶ～』上原地区【6月7日】

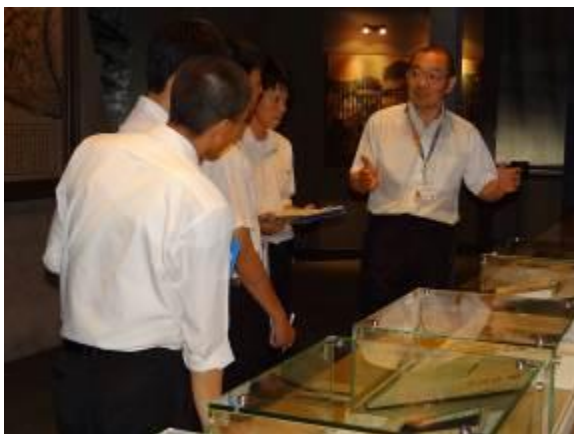
総合分野では3回目のフィールドワークとして上原地区を訪れました。

訪れた場所は、広瀬歴史記念館・旧広瀬邸でした。今回は、広瀬歴史記念館の久葉裕可館長さんから直接ご案内をいただく貴重な機会となりました。

はじめに、広瀬歴史記念館を見学しました。記念館の造りが大海へ漕ぎ出す船をイメージしていることや潜望鏡のしくみを利用して市街地や山間部を展望できる設備、さらには住友上部鉄道の切り通しの実際に型を取ったジオラマの迫力に驚きました。そして、広瀬幸平の生い立ちや人物像、その功績について分かりやすく解説してくださいました。館外では、広瀬幸平銅像の復元に至る過程などについてお教えいただきました。

旧広瀬邸では、和風建築にガラスや洋風トイレ、避雷針などの輸入品を取り入れたこと、楠木を利用したお風呂や日本の陶芸家が製作した小便器など、幸平が建物へかけた思いやこだわりの数々を目の当たりにして、驚きと感動の連続でした。そして、日本庭園は建設当時の趣に再現する作業も進められており、ますます魅力を感じることができました。

久葉館長さんには、ご多忙の中私たちのために貴重な機会をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。



広瀬歴史記念館館長の久葉裕可さんに  
解説していただいている様子



旧広瀬邸について解説いただいている様子

### (24) 第9回別子銅山 山・浜・島あかがねの道スタディーツアー開催【6月11日】

ユネスコ部主催による「別子銅山 山・浜・島あかがねの道スタディーツアー」を開催しました。商品化となって9回目を迎えたツアーには、市内外から18名の方がご参加くださいました。

梅雨に入り、天候や波を心配していましたが、梅雨の晴れ間となり、絶好のツアー日和となりました。

ました。

今回のツアーの特徴は、旧端出場水力発電所が耐震作業のために公開できなかったことから、これまで時間不足で断念していた旧広瀬邸を組み込めたことでした。

9:00 に JR 新居浜駅を出発しました。小型バスを利用したことで、途中乗換えが無く、予定より早く東平地区へ到着することができました。

東平地区では、ユネスコ部員による案内で、東平歴史資料館やその周辺、ツアーの目玉である貯鉱庫跡などをゆったりとご覧いただきました。別子銅山稼動時に東平に住まわれた方からの聴き取り調査をもとに、当時のエピソードを交えた解説に、参加者は現在の風景に当時の様子をイメージして重ね合わせていました。また、朝日を浴びてコントラストがくっきりと現れた石組みの雄大さに、参加者は圧倒されている様子でした。



村上校長先生（後列右から3人目）が  
出発前、応援に駆けつけてくださいました



東平索道基地前でのガイドの様子

次の端出場地区では、昼食を挟み、観光坑道を見学していただきました。ユネスコ部員の用意した解説用のパネルやクイズを交えての案内を楽しんでいただきました。時間も順調で、予定通りに次の場所へ移動できました。

別子銅山記念館では、田尾邦雄館長さんにご案内をいただきました。田尾館長さんのご好意で、300年前の輝きそのままの本物の倣銅を見せていただき、一同感動の声を上げていました。そして、ひとつひとつ丁寧にじっくりと解説していただき、別子銅山への学びをさらに深めることができました。

次の旧広瀬邸は、モニターツアーでは訪れていましたが、商品化したツアーでは初めての訪問となりました。ここでは、今回の為に部員が手づくりしたガイドマップを片手に、思い思いに見学していただきました。邸内の各ポイントにはユネスコ部員が待機して、ご案内をさせていただきました。

星越地区では、バスの車窓から山田社宅、星越駅舎、選鉱場跡などを見学しました。そして、鷲尾勘解治顕彰公園では、本校の家庭クラブが制作した紙芝居「鷲尾勘解治物語」をご披露しました。先人の思いをセリフに込めて発表し、参加者の皆様から大きな拍手をいただくことができました。



お客さんを誘導している様子



観光坑道入口でのガイドの様子



最後は、ツアー最大の目玉である四阪島クルージングでした。瀬戸内海は波が穏やかで、船は海上を滑るように一路四阪島に向かいました。航行中、別子銅山の環境問題克服の歴史や島の見所などについてプレゼンテーションを行い、クルージングの機運を高めました。そして、30 分ほどの航海で到着しました。ゆっくりと航行しながら 1・2 階の展望デッキでユネスコ部員の解説を聞き、目の前に迫るカラミの岸壁や今回で見納めになる日暮別邸など、先人の偉業の数々に圧倒されているご様子でした。

帰途につく頃には、夕暮れとなり、海岸の工場群の明かりが灯り始め、サンセットクルージングも楽しむことができました。

時間が押してしまい、結局 19:30 に JR 新居浜駅へ帰着となりました。

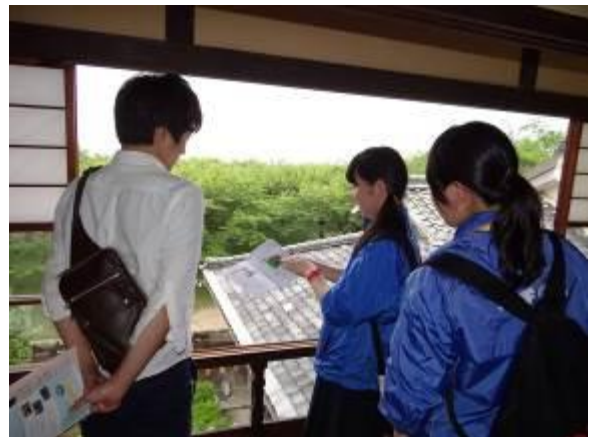
しかし、バスを降りられる参加者の皆様からは、笑顔で「ありがとう」「楽しかった」とお言葉をいただくことができました。

参加者と高校生が楽しみながら共に多くの学びを経験し、また深めることができた貴重なツアーになったと思います。今後は、さらに充実したツアーが実施できるよう頑張ります。

ツアー実施には、住友金属鉱山別子事業所、愛媛新聞社、せとうち観光社、マイントピア別子、別子銅山記念館、広瀬歴史記念館など多くの皆様のご協力をいただきました。



別子銅山記念館館長の田尾邦雄館長さんから  
300 年前の棹銅を見せていただいている様子



旧広瀬邸で自作のガイドブックを利用して  
案内する様子



紙芝居を披露している様子



四阪島クルージングでのガイドの様子

#### (25) 平成 28 年度 別子銅山産業遺産創造塾①【6 月 12 日】

今年度の別子銅山産業遺産創造塾（新居浜市主催）が始まりました。その 1 回目が、ウイメンズプラザを会場に開催されました。

市内から 12 名の高校生（西高 1 名、南高 11 名）が参加しました。

開講式において、別子銅山文化遺産課の秦野親史課長さんよりごあいさつがありました。

昨年度は、多くのメディアに別子銅山が紹介され、特に正月に放映された「百年の計、我にあり」については、新居浜にとっての先人の先進性が伝えられ、いい情報発信になったと振り返られました。そして、今回の講座の目的について次の 3 つを述べられました。「産業遺産ができる過程について、先人の苦労を掘り下げて考え、どうしてこのまちができたのか、その成り立ちに

視点を持って考える」こと。「知識や基礎をしっかり押さえる」こと。「人に興味を持って、人物を学ぶ」こと。さらに、今回の学びは、今だけでなく将来にわたって続け、新居浜市に貢献して欲しいと期待の声もいただきました。

オリエンテーションでは、本事業を企画・運営されるリージョナルデザイン株式会社の安孫子尚正さんから、本講座を学ぶにあたって、「原点」に戻ることを目的に聴き取り調査を行い、文字にしてどのように情報発信するかを学んで欲しいとのアドバイスをいただきました。

講座①では、「別子銅山の歴史」と題して、広瀬歴史記念館の久葉裕可館長さんより、広瀬幸平、伊庭貞剛の生い立ちや功績などについて、詳しく分かりやすい言葉でご講話いただき、改めて先人の偉業について学習でき、その先見性や行動力のすばらしさに感銘を受けました。

講座②では、「別子銅山産業遺産の歴史的意義・保存活用」について秦野課長さんよりご講話をいただきました。別子銅山の規模をはじめ、東洋のマチュピチュとして有名になった東平地区の観光客の動向、また別子銅山の世界史的意義、さらにはこれから新居浜市が計画している保存活用の具体的なお話もいただくなど、新しい展開へ向けた取り組みに心が弾みました。

昼食を挟んで、午後からは講座③「住友の都市計画」と題して、別子銅山記念図書館の坪井利一郎さんより、住友金属鉱山初代取締役の鷲尾勘解治と初代新居浜市長の白石誉二郎との地方後援策としての都市計画について詳しく解説をいただきました。その中で、特に地図を読む「読図」の大切さに触れ、「地図には歴史が書き込まれていく」とのお話は、今後地図を見る際に大切なポイントとなりました。

また、安孫子さんよりフィールドワークを通して、今の現状から情報を読み取ることの大切さについてアドバイスをいただいた後、フィールドワークに出発しました。

フィールドワークでは、別子銅山記念図書館周辺を皮切りに、坪井さんに案内していただきながら、惣開界隈を歩きました。あいにくの雨天でしたが、目に映る別子銅山の近代化産業遺産は、坪井さんのお話を通して輝いて見えました。そして、各自持参したカメラやスマートフォンなどで写真に収めて行きました。

今日の学びを持ち帰り、しっかりと復習して定着させ、次回の講座に活かせるよう準備をしたいと思います。



別子銅山文化遺産課課長の秦野親史さんが  
あいさつされる様子



フィールドワークで旧住友病院建物を  
見学する様子（この後解体されました）

## (26) 総合的な学習の時間「ライフスタディⅡ」課題研究

『あかがねの道～別子銅山の先人達の生き様からESDを学ぶ～』惣開地区【6月14日】

総合分野では4回目のフィールドワークとして惣開地区を訪れました。

訪れた場所は、住友化学株式会社愛媛工場歴史資料館でした。

この資料館は住友化学の工場敷地内にありますが、事前に許可をいただくことで、誰もが見学することができます。

資料館に到着して間もなく、館外に新しく設置された肥料運搬用の電車で目を奪われました。当時のままの姿で保存展示されており、今はまだその準備の段階の様子でした。

館内では、はじめに住友化学の成り立ちについて学びました。

別子銅山の環境問題克服の歴史の中で始まったことを本物の資料で実際に見ることで深く学ぶことができました。そして、100年の歴史を積み重ねた現在、世界的な企業となっていく過程



も展示品を通して知ることができ、感心しました。

また、館内には当時使用されていたピアノや電話なども展示され、興味を引かれました。

さらに 2 階に上がると、明治期から昭和にかけて当時の様子を撮影した貴重な写真や絵葉書が整理・展示されていて、現在の様子を思い出しながら、当時の大きな変化に驚きました。

住友化学の歴史を通して、ふるさとへの興味や関心が高められ、愛着や誇りを感じることができました。



住友化学歴史資料館前にて



館内の展示を見学する様子

#### (27) ツガザクラ保護活動②～事後研修会～【6月14日】

本校において、憧山会でツガザクラ保護活動をご担当されている今北貞雄さんを講師にお招きして、5月22日に銅山峰にて行ったツガザクラ保護活動の事後研修会をユネスコ委員およびユネスコ部が参加して行いました。

はじめに、ツガザクラの種類や特徴などについて説明していただきました。

その中で、京都大学のDNA鑑定の中間報告より、銅山峰のツガザクラは日本の他のツガザクラと違い、別の系統で、もっと古い時代のものではないかとのことでした。そのことから、銅山峰のツガザクラが特異で貴重な存在であることを知り、保護する大切さをさらに感じました。

次に、銅山峰の土壌について学習を行いました。別子銅山開坑以前の植生について、史料から紐解いていただき、開発が進むにつれての様子について学びました。土壌の酸性度については、昭和20年代の測定ではpH2.4であったものが、40年後の昭和60年ころにはpH5.0～5.4と回復し、今回の調査では、平均pH5.0であったことより、安定していることが分かりました。

最後に、今北さんから「300年以上の昔、原始林に覆われていた別子の山は、銅鉱石の開発で不毛の地と化した。裸地から極相林になるのに400年掛かるとも言われている。別子の山から亜硫酸ガスが消えて112年、別子の山は今、300年前の極相林を目指しているが、大気汚染や地球温暖化を考えると300年前と同じ極相になるのか疑問が残る」とのお話をいただきました。

今年の秋にも再調査を行い、ツガザクラの保護や銅山全体の植生の変化にも目を向けて行きたいと思います。



今北貞雄さんより調査結果について  
お話いただいている様子



ツガザクラの生態などについて  
解説いただいている様子

**(28) 参議院議員選挙啓発CM優秀作品賞をユネスコ部が受賞【7月8日】**

新居浜市選挙管理委員会が主催し、新居浜市内の高校生、高専生、専門学校生を対象に参議院議員選挙啓発用CMを募集していました。

この度、優秀賞2点が発表され、本校と新居浜商業高校生徒会の作品が選ばれました。

新居浜市役所において、その発表と副賞の授与式が行われました。

新居浜市明るい選挙推進協議会の池田寅之助会長から目録を受け取りました。

その後、それぞれの作品を鑑賞したり、記念撮影などを行い、報道関係者の方々の取材をいただきました。選ばれた作品は6月23日からハートネットワークで180回放映される予定です。このCMを見て多くの若者が選挙に行くきっかけになってほしいと思います。



授与式の様子



受賞記念写真



東平での撮影の様子



小雨の中での撮影の様子

**(29) 総合的な学習の時間「ライフスタディⅡ」課題研究**

『あかがねの道～別子銅山の先人達の生き様からESDを学ぶ～』東平地区②【7月12日】

総合分野では5回目のフィールドワークとして東平地区を訪れました。

東平地区は2回目となりますが、今回は特に東平時代とのスタートとなった場所である第三地区を訪れました。

ここには、東平地区のスタートとなる第三通洞があります。またこの周辺には、火薬庫跡、第三変電所など見どころもたくさんありますが、時間の関係で第三通洞がメインとなりました。ただ、火薬庫跡では地中の冷たい空気が噴出しており、まさに天然のクーラーの様でした。余りの涼しさに、しばらくその場を離れられませんでした。

その他、鹿森ダムが放流する珍しい様子も見学でき、そのスケールの大きさに圧倒されました。1学期の授業はこれで終わりです。2学期も再度東平を訪れる予定です。

1学期での別子銅山の近代化産業遺産の学習を通して、その魅力をますます感じ、興味関心が高まりました。2学期からの学習も楽しみです。





第三通洞にて学習したことを発表している様子



火薬庫跡から出る冷たい空気を感じている様子

**(30) 第3回図書館学習会「別子銅山 近代化産業遺産の旅～旧広瀬邸トラベラー～」【7月14日】**

学校を飛び出して旧広瀬邸を実際にトラベルしました。

新居浜唯一の重要文化財である旧広瀬邸を会場にスタンプラリーを行い、その魅力を楽しみながら学びました。

猛暑の中でしたが、図書委員やユネスコ委員8名が参加してくれました。

始めに、旧広瀬邸の魅力を紹介したガイドブックを配布しました。このガイドブックは、3年次生でユネスコ部副部長の永易舞さんが制作したものです。6月に行われたあかがねの道スタディーツアーでも使用しましたが、さらに改良を加えてグレードアップしました。そして、そのガイドブックを使って、邸内にある7つのポイントを紹介しました。

その後、スタンプラリーを開始しました。参加者は積極的に邸内を巡りながら、ポイントを見つけてはユネスコ部員から説明を受け、スタンプを集めて行きました。1時間ほどで、ラリーも終わり、古き良き明治へのタイムトラベルを満喫しました。

今回の学習を通して、それぞれが旧広瀬邸の魅力を見つけてくれたようです。



スタンプを押してもらっている様子



全員スタンプラリー完了です！

**(31) 「伊予銀行登道支店ロビー展**

**「未来へつなぐ別子銅山～地域の宝から世界の宝へ～」展【7月14日～8月29日】**

伊予銀行登道（のぼりみち）支店のご厚意により、本校情報科学部からユネスコ部に至る別子銅山学習活動の16年余りの記録をパネルにした展示会を開催させていただいています。

活動の様子をパネルで紹介したり、別子銅山の産業遺産ガイドブック、活動記事、交流学习で制作した銅板による折り鶴など約40点余りを展示しています。

展示に使用しているパネルは、愛媛県東予地方局地域政策課によって制作していただいたものをお借りしています。

この展示会を通して、お店を訪れた地域の方に私たちの活動を知っていただき、ふるさとの宝である別子銅山の産業遺産にも興味・関心を持っていただきたいと思います。そして、地域の方々との出逢いの輪が広がることも期待しています。



パネル展準備の様子



パネル展の様子

(32) 第10回新居浜ユネスコ寄席～つなげよう平和の心～【7月16日】

民間ユネスコの日を前に、新居浜ユネスコ協会が主催し、10回目となる新居浜ユネスコ寄席が新居浜市市民文化センター中ホールにて開催され、220名を超える来場者がありました。

新居浜市を代表し、全国社会人落語選手権でチャンピオンの座を獲得された芸乃虎や志さんをはじめ、福岡、兵庫、広島、大阪からアマチュアの落語家の皆さんが一堂に会し、新居浜市民を笑いの渦に巻き込みました。

ユネスコ部は、新居浜ユネスコ協会の青年部としても活動させていただいており、熊本震災のこども支援や世界寺子屋運動への募金を呼びかけました。みなさん快く賛同してくださり、25,000円を超える募金が集まりました。

また、会場のロビーでは、アジアで初めて産業遺産としてユネスコの世界文化遺産となった石見銀山へユネスコ部が現地研修に行かさせていただいた際のパネルや資料も展示し、休憩時間等にご覧いただくこともできました。



新居浜ユネスコ協会皆様と記念撮影



寄席の様子



募金活動を行なっている様子



パネルについての説明をしている様子



### (33)「イオン新居浜 15 周年祭」ユネスコ部活動発表【7 月 17 日】

イオンモール新居浜のイオンホールにおいて、ユネスコ部員が、買い物で訪れていたお客様を前に、日頃取組んでいる活動について発表させていただきました。

来場された中には、本校の在校生や卒業生、保護者もいらしていました。

部員は緊張感いっぱいの中でしたが、落ち着いた様子で堂々と発表し、その発表にうなずきながら聞いてくださるお客様の姿も見られました。そして最後には、ご来場の方々から温かい大きな拍手をいただくことができました。

今回の発表を通して、これからの新居浜の課題やその解決のために必要なことなども感じていただけたと思います。

ところでイオンホールには、えんとつ山倶楽部や日本お手玉の会といった私たちが日ごろお世話になっている方々の活動展示ブースも設けられており、部員たちは、えんとつ山の環境整備の取組紹介のパネルを見たり、お手玉の方法を楽しく教えていただいていたいました。

この度、イオンモール新居浜の皆様には、貴重な機会をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。



活動発表の様子



ESDパスポート活動について紹介している様子

### (34)「平成 28 年度「T O Y O 産業遺産ガイド」養成講座でガイドを務めました！【7 月 17 日】



四阪島大煙突のモニュメント紹介の様子



社宅についてガイドしている様子

愛媛県東予地方局が主催して開催されている講座において、ユネスコ部員が新居浜でのガイドを務めさせていただきました。

この講座は東予地域の高校生等を対象に、産業遺産の歴史的意義等を学び、郷土に対する誇り（シビックプライド）を育み、魅力ある愛媛・東予の情報発信を担う「語り部」を養成する講座で、全 4 回のシリーズで行われます。

昨日からスタートし、第 1 回目は西条での講座を行い、別子ハイツに宿泊しました。

そして、今日の第 2 回目が新居浜での講座となりました。

今治西、今治北、今治北大三島分校、丹原、西条、新居浜東、新居浜南の 7 校から 23 名の高校生が参加しました。

講座の前半では、研修拠点となっている別子ハイツを出発し、始めに旧山根製錬所のレンガづ



くりの煙突が残るえんとつ山へ登りました。

そして、大山積神社、別子銅山記念館の屋外展示場に展示されている別子 1 号機関車、四阪島大煙突のモニュメント、山根収銅所などを見学しました。

後半は、場所を星越地区に移動し、旧星越駅舎、星越選鉱場跡、星越トンネル、外国人社宅、旧住友共電社長宅などを見学しました。

ガイド講座に参加した高校生からは、ユネスコ部員のガイドに感心したとの感想を聞くことができました。また、高校生同士としての交流も深めることができました。しかし、現場に行って気付くことも多く、さらに学習を深めていく大切さを知ることができました。

今日の出逢いを大切に、共にガイドができる日が来ることを楽しみにしています。

### (35) 東予信用金庫泉川支店「石見銀山現地研修活動パネル」展開催【7月19日～8月29日】

東予信用金庫泉川支店のご厚意により、店内のロビーにおいて、ユネスコ部の石見銀山現地研修活についての展示会が始まりました。

展示内容は、活動の様子の写真パネル、灰吹法の再現サンプル、琴が浜の鳴き砂、地元の昔ながらのお菓子である「げたのは」、福光石や石州瓦のコースターなど約 30 点です。

昨年に引き続いての展示の機会をいただくことができました。

今回は、別子銅山だけではなく、他地域での活動の様子も知っていただく貴重な場となります。ご覧になられた方が、石見銀山に興味をもたれ、現地を訪れていただくきっかけとなって欲しいと思います。



展示準備の様子



展示の様子

### (36) 東北現地視察研修「鉱山（やま）交流でつくる絆～その先にあるものを探して～」

事前学習会【7月20日】

ユネスコ部では、7月21日～7月24日までの3泊4日間で、秋田県の尾去沢鉱山・小坂鉱山・阿仁鉱山へ現地研修を行うこととなりました。本研修は、文部科学省主催による「首長部局等との協働による新しい学校モデル構築事業」（新居浜市が受託、実践は新居浜南高校）の一環で、高校生派遣事業として実施されるものです。

今回の現地視察研修のテーマは「鉱山（やま）交流で造る絆 in 東北～その先にあるものを探して～」です。日本最大規模の銅鉱脈群採掘跡が残る鉱山として有名な尾去沢をはじめとする各鉱山の見学もさることながら、特に阿仁鉱山では、地元の小学生による観光案内、さらには、高校生と大学生とのシンポジウムや交流会なども予定しており、そこから次に見えるものをお互いに探してみたいと思っています。

今日は、その前日となることから、ご同行いただく新居浜市役所職員や学校評議員などを学校にお招きし、事前学習会を行いました。部員がそれぞれ分担して、当地の概要や文化、高校生からの視点での観光地や伝統工芸品、食べ物、各鉱山の歴史や特色、交流先の学校、平泉の歴史やその意義などについて調べたことを発表しました。どの内容も時間をかけて研究し、発表方法や画面構成などよく工夫され、とても分かりやすい内容で、明日からの研修がますます楽しみとなりました。

現地研修では、本物を体験し、新しい出逢いを積極的に求めて、多くの物を持ち帰り、良いご報告ができるよう頑張ってきます。



事前学習会の様子



高校生の視点からの食文化も紹介

### (37) 東北現地視察研修【7月21日～7月24日】

研修初日に訪れたのは、秋田県小坂町の康楽館でした。ここは、明治43年（1910）に建築された木造2階建、収容人数は600名余りで、平成14年（2002）に国重要文化財となった芝居小屋です。

始めに、副館長の田中出さんより、館の概要や演じられる芝居についてご紹介いただきました。その中で驚いたのは、劇団員に新居浜出身者がいたことでした。残念ながら来月予定の芝居であることから、ご本人にはお会いできませんでした。

そして、黒子の中村謙太さんより、館内を案内いただきました。館の歴史や特徴、舞台装置や楽屋、切穴（すっぽん）、回り舞台まで見せていただくことができました。

別子銅山にもかつては回り舞台が備わった劇場があったが実物は無く、資料や想像でしかガイドできませんでした。今回本物を見ることができました。また、舞台の回し方なども具体的に知ることができ、今後に活かせる多くのヒントをいただきました。



康楽館前にて



康楽館副館長の田中出さん



康楽館内部の様子



2階桟敷席の様子





楽屋内を案内する黒子の中村謙太さん



回り舞台の下部の様子

続いて、館に隣接されている小坂鉱山事務所を見学しました。快晴の空の下にモダンな洋風建築が目の前に現れ、その美しさに全員が歓声をあげました。明治 38 年（1905）に建設された木造 3 階建、ルネッサンス風の外観意匠を今に残し、康楽館と同年に国重要文化財となりました。

小坂まちづくり株式会社総務課長の田原正志さんより事務所内を案内いただきました。

始めに、事務所の歴史や建物の外観、周辺の近代化産業遺産について説明していただきました。中へ入ると、玄関ホール中央に 3 階まで突き抜けるケヤキを用いたモダンで大きならせん階段が現れ、圧倒されました。らせん階段の曲線はとても優美で気品にあふれており、明治人の気風を感じることができました。また、建物内には様々な工夫やこだわりが施されており、上げ下げ窓には左右の窓枠にランサースを取り付け、自由な位置で窓の開閉の広さが調整可能なこと、サラセン風のバルコニーの透かし彫りの中に当時の経営者であった藤田組の社名がデザインされるなど、先人のウィットさを今に伝えていました。



小坂鉱山事務所前の様子



小坂まちづくり(株)総務課長の田原正志さん



らせん階段を上る様子



バルコニーの様子



さらに事務所内には、各部屋に小坂のまちの歴史や文化、町に広がる近代化産業遺産の紹介を、写真パネル、模型、ビデオコーナーなど、趣向を凝らしたアミューズメンタルな演出で展示し、随所に見学者を飽きさせない工夫がなされていました。

ところで、この売店には事前学習で知ったババヘラアイスが販売されており、生徒たちはおいしい学びも楽しんでいました。

その後、尾去沢鉱山へ移動し、昼食を挟んで見学を行いました。

ここでは、株式会社ゴールデン佐渡（新潟県・佐渡）を本社として尾去沢鉱山での営業課長である関村秀穂さんより案内いただきました。

始めに資料館にて歴史や鉱脈の働き方やその規模、採鉱で使用した道具などについて説明をいただきました。

尾去沢鉱山は和銅元年（708）に発見され、ここで産出された金は、平泉の中尊寺金色堂に使用されたといわれています。



大人気だったババヘラアイス



説明される営業課長の関村秀穂さん



観光坑道入口にて



観光坑道内の様子



高さ30メートルに及ぶ採掘跡

その後、観光坑道に入りました。坑道内は気温13度と、外気との温度差に驚きました。

坑道の壁面には露出した約900万年前の地殻の断層やアメジストなどの鉱物があるままの形で見え、直接手で触れることもできました。また、今も残る銅鉱脈はまるで金屏風のようで、別子銅山での採鉱体験者が語っていた様子を目の当たりにすることができ、感動しました。

さらに、近代坑道として高さ30メートルにも及ぶ採掘跡の規模は、漆黒の闇の中、キャップランプの灯りを頼りに作業を行ったことの凄さに唖然としました。一方で、南部藩政時代の二尺三尺坑道の手掘り坑道が見て取れ、そのノミ跡からは、当時寿命30歳といわれた坑夫たちの命の証が刻まれているエネルギーをひしひしと感じました。そして、採鉱技術が時代とともに移り



変わって行く様も同時に学ぶことができました。

ところで、尾去沢鉱山は三菱の経営でしたが、山神は大山祇神社で別子銅山と同じであり、大変な親しみを感じることができました。



製錬所跡を見学する様子



製錬所の煙突

最後に、坑外の近代化産業遺産をバスに乗って、選鉱場跡や製錬所跡、高さ 60m 余りのコンクリート製の煙突などを見学しました。目の前に迫る先人たちの偉業を肌で感じる事ができた。

しかし、坑外の近代化産業遺産は崩壊が進み、残していきたいという住民の想いと経済的な負担という保存の難しさなど、課題も同時に知ることができました。

本日の研修を通して、それぞれ案内いただいた方々に共通することは、地域に対する愛着や誇りを言葉に表されていることでした。少ないスタッフの中で、一人で案内役、販売員、バスの運転手、メンテナンス作業など何役もこなしている姿が拝見できました。生徒たちはその姿を通して、町に誇りを持ち、その歴史や文化を伝えていこうとする人としての在り方を学ぶ機会にもなりました。

研修二日目、本日も天候に恵まれ、素晴らしい研修日和となりました。

ホテルを予定通り出発、最初に阿仁ふるさと文化センターに到着。すぐさま、この度の交流会のお世話をいただいた北秋田市教育委員会生涯学習課生涯学習係の松田純子さんと打ち合わせを行いました。ご多忙の中、これまで相当な時間をかけてご準備いただいたことに対して心より感謝の意を申し上げました。

会場には『阿仁鉱山（やま）交流会～愛媛県立新居浜南高等学校ユネスコ部を迎えて～』の大きな横断幕を作成いただいております、細やかな心づくしのお気持ちに胸が熱くなりました。

開会セレモニーでは、北秋田市教育委員会教育次長の長崎幸雄さんより、歓迎のごあいさつをいただきました。

次いで、ユネスコ部部長の寺尾遥さんがあいさつさせていただきました。ユネスコ部の活動紹介や松田さんにご縁をいただいたきっかけ、たくさんの方々のおかげで研修に来られたこと、交流会への期待等について、立派なあいさつができていました。

そして、阿仁合小学校代表の児童からは、鉱山について学んできたことや自分たちのガイドを通して町の良さを一つでも知ってもらいたいと元気なあいさつをいただきました。

次に、秋田県文化財保護協会阿仁支部長・阿仁合ぶらぶらガイド代表の戸嶋喬さんより、阿仁鉱山の歴史について概要説明があり、阿仁鉱山の一つである真木沢銅山は宝永 3 年（1706）に住友（泉屋）が開発しているお話をいただき、ちょうど 310 年の時空を超えてここに新しい出逢いが生まれたことに不思議な縁を感じ感慨深い思いとなりました。そして、享保元年（1716）には日本一の産銅量を誇っていたことなどをお教えいただきました。



北秋田と新居浜の懸け橋となって  
くださった松田純子さん



あいさつする寺尾遥さんの様子



講演される戸嶋喬さんの様子

その後、阿仁合小学校児童 5・6 年生 15 名による観光ボランティアガイドを行った。阿仁合小学校の全児童数は 31 名、3 年生からふるさと学習が始まり、5 年生からガイドを始めるとのこと。年間 3 回程度実施をしており、今年は初めてのガイドとなった。

始めに、阿仁ふるさと文化センターを出発し、阿仁合駅へ移動しました。

ここから小学生 5 名が 1 組になり、3 班に分かれてスタートした。阿仁合ぶらぶらガイドの方々も同行していただきました。

小学生は手作りの旗を持って先導し、各ポイントに来ると、立ち位置を考え、案内する対象に手を差し伸べ、原稿無しで説明を行いました。

目をきらきらと輝かせながら、自分の言葉で自分の想いを伝えようとする姿は、ふるさとへの愛着や誇り、自信に満ち溢れていました。そして、その想いが私たちにしっかりと伝わってきました。

また、歩くスピードもお互いに声を掛け合って注意し、休憩を入れるタイミングも絶妙で、水分補給の注意まで細かく気配り、心配りができていました。

さらに、手作りの紙芝居を披露したり、クイズを出したりするなど、随所に工夫が見られ、驚きと感動の連続でした。

高校生にとって、自身のガイドを振り返る好機となり、多くのヒントや気づきを得ることができたと思います。

一番感動したのは、児童が地域の大人の方々に温く見守られながら、深い信頼関係の中で伸び伸びと活動していることでした。またその循環のしくみができていました。



阿仁合小学校児童によるガイドの様子



手作り紙芝居によるガイドの様子

最後に、児童全員が「阿仁からめ節」を紹介してくれました。北秋田市無形民俗文化財にもなっています。「からめ」というのは鉱山の坑道口前に掘り出された鉋（はく：鉱石のこと）を鋸で細かく叩いて選鉱する鉋つぶしのことを言います。その作業は大変きつい仕事で、この辛さや疲れを紛らわすために合わせて唄った作業歌がからめ節の基になっているといわれます。

阿仁合小学校の児童の皆さんはガイドや民俗芸能など、今回の私たちの訪問のために懸命にたくさんの時間をかけてご準備していただいた様子が伺え、感動で目頭が熱くなりました。お別れの際には、記念写真を撮り、握手で別れを告げ合うなど、感動の交流会となりました。





クイズを出題している様子



児童による「阿仁からめ節」の様子



握手でお別れしている様



阿仁合小学校児童の皆さんと記念撮影

昼食は、「鉱山文化の試食会」として馬肉ハヤシライスをいただきました。昔、坑夫が身体を壊した際に馬肉を食べて回復したことから、この地に馬肉を食べる習慣が生まれ、それにちなんでの馬肉を使用したハヤシライスでした。阿仁合駅構内にある「こぐま亭」の定番メニューで、ここのシェフはフランス料理店で料理長を務めていたとのこと。味もさることながら、このような趣向を凝らしたご配慮までいただいたことにも感謝しました。

午後からは、阿仁総合窓口センターを会場に、秋田大学学生との交流会が行われました。

交流会は秋田大学北秋田分校長の濱田純先生をコーディネーターに進められました。

始めに、ユネスコ部が「あかがねプロジェクト～ふるさと新居浜を未来へつなぐ～」と題して活動報告を行いました。

その後、秋田大学の海外鉱業研究会による発表が行われました。

発表項目は、「秋田県の鉱山史」「秋田県の金属鉱山」「秋田県の石油工業の昔と今」「秋田県の金属リサイクル」の4件でした。いずれの内容もイラストや写真を多用して高校生向けに分かりやすく、また愛媛にちなんだエピソードも盛り込むなど、温かい心遣いを感じる内容でした。

その後、質疑応答となり、大学生、高校生、さらには一般の方々からも次々と質問が繰り出され、大変積極的なやり取りが行われました。ただ、自分の地元についての質問については十分答えられない場面もありました。しかし、それがかえって自分の故郷を外から見つめる機会にすることができたと思います。

ところで、大学生からは、地域と連携した取り組みが新鮮で、自分たちもそのような活動を取り入れたいとの感想や活動の活性化についてのヒントなどをいただく場面もありました。

最後に全員で記念写真を撮らせていただいた際、大学生と高校生がざっくばらんに交流できる場面ができ、時間が過ぎるのを忘れるほど交流が深まっていました。

今日の研修は、小学生、大学生、地元の方々との交流を通して、キャリア教育の実践にもつながりました。特に、小学校の教員からは児童が視野を広げる絶好の機会になったと喜んでおられました。

今回の3泊4日に渡る東北現地研修は数多くの出逢いを経験させていただきました。

充実した貴重な研修は、北秋田市教育委員会生涯学習課生涯学習係の松田淳子さんをはじめと

して、多くの方の支えによって活動できたことは感謝の念に堪えません。

そして、けがや病気も無く安全に研修を終えられたのは、ご同行いただいた本校学校評議員の谷口淑子さん、新居浜市職員の皆様に様々な場面で助けていただいた賜物でした。

生徒には出発前後の自分の変化を振り返ることで、成長を実感して欲しいと考えています。そして、保護者や学校教職員の支えも忘れてはいけません。

この研修を通して得られた成果を部活動や普段の学校生活、自分の生活の中に活かして欲しいと思います。



活動報告の様子



秋田大学の皆さんと記念写真

#### (38) 新居浜市船木公民館「銅の折鶴づくり」講座【7月27日】

船木公民館において夏休み子ども教室が開催され、船木小学校1年生から6年生までの児童や保護者27名が参加しました。

ユネスコ部では出前授業として、別子銅山の歴史を紹介し、銅の折り鶴づくりを行いました。

参加した児童の中には、別子銅山の歴史の紹介が始まる前から「広瀬幸平」「伊庭貞剛」などの名前が飛び出すなど、ふる里学習が定着してきていることに驚きを感じました。途中のクイズでも正解が続出していました。

銅の折り鶴づくりでは、銅版を慎重に一折一折し、少しずつ形になっていく様子に歓声を上げ、楽しく鶴を折り上げました。

また、ご両親や中には祖父母のご参加もあり、三世代交流を深めながら、和気あいあいと作業を進められる姿に心が温くなりました。そして、それぞれの想いのこもった世界にたった一つの銅の折り鶴が完成し、全員で記念写真を撮るなど、思い出に残る一日となりました。



折り方を教えている様子



完成記念にみんなで記念撮影

#### (39) 新居浜市シティブランド戦略ワークショップ【7月28日】

新居浜市地方創生推進室が主催し、新居浜市役所において、高校生を対象とした市民ワークショップが開催され、参加したのは、新居浜東高校および新居浜商業高校より各4名、本校からは11名の計19名でした。

今回のワークショップでは、新居浜シティブランド戦略の策定に向けて、具体的な作業を進め



る上で、現状分析や市民意識の把握などを行うことを目的としています。

今回の業務を委託されている株式会社博報堂のスタッフがファシリテータとなり、二つのグループに分けてグループインタビュー形式で進められました。

ワークショップは、前半を新居浜の現状、後半を新居浜の未来をテーマとしました。

前半では、新居浜の「好き・嫌い」について、それぞれの思いをカードに書いて、ボードに貼り、その理由などを発表し合いました。そして、出されたカードを祭りや歴史、教育などのカテゴリー別に分類してまとめました。その後、一旦全員で集まり、各班での話し合いの結果を代表者が発表し、お互いの考えを共有しました。

後半では、新居浜を「こんなまちにしたい」について、同様にカードの記入や発表を行い、熟議を重ねました。最後にまた全員が集まり、情報を共有し合いました。

今回のワークショップを通して、ふるさとについて改めて深く考え、新たな発見もできた機会となりました。そして、学校は違っても同じ市内に住む高校生同士が、一つのテーブルを囲んで、ふるさとをテーマに語り合える場ができたことは大変貴重で有意義でした。今後も、このような取り組みを継続していただきたいと思います。



アイデアをまとめている様子



グループの代表が発表している様子

#### (40) 海外高校生観光ガイド(マイントピア別子端出場・東平)【7月31日】

新居浜市内で開催された日本語スピーチコンテストに参加した16の国と地域から17名の海外高校生が別子銅山を観光し、ユネスコ委員とユネスコ部がその案内をさせていただきました。

マイントピア別子端出場ゾーン（以下、端出場）で海外高校生をお出迎えしました。

到着した一行は、昼食のためレストランに入り、昼食前にユネスコ部部長の寺尾遥さんが英語で歓迎のあいさつを行った。そして、海外高校生とユネスコ部員が交流しながら昼食を楽しみました。

その後、2台のマイクロバスに分乗し、東平ゾーン（以下、東平）に向かった。海外高校生はお互いの共通語が日本語で、その道中では日本のアニメソングを合唱するなど、大変な盛り上がりでした。

東平に到着後、今回の為に作成した英語版のガイドブックと用意した銅鉱石をプレゼントし、とても喜んでいただきました。

始めに歴史資料館をご案内し、その中で最も興味を示してくれたのが、30 kgもある俵を背負う「仲持ち体験」でした。たくさんの高校生が次々と体験していました。

その後、「東洋のマチュピチュ」として脚光を浴びている貯鉱庫跡を見学して、そのスケールの大きさに圧倒されている様子でした。

東平での見学後は端出場に戻り、観光列車に乗り観光坑道を見学しました。外の暑さに比べ、坑道内の涼しさにほっとした表情でした。

そして、私たちの説明に熱心に耳を傾け、積極的にコミュニケーションを取ってくれました。

また、ここでも体験コーナーは大人気で、削岩機やポンプ、大きな石を持ち上げる体験など、時間が過ぎるのを忘れるほど楽しんでくれました。

お別れの際には、海外高校生のメッセージが書かれた色紙をプレゼントしていただきました。

また、今後の交流にもつながるように、お互いのLINE連絡先を交換するシーンも見られました。お互いにとって、非常に素晴らしい学びの機会となりました。



昼食を楽しんでいる様子



英語版ガイドブックを配布している様子



施設の仕組みを説明している様子



全員で記念撮影

#### (41) 平和の鐘を鳴らそう【8月6日】



開会あいさつされる青野正会長さん



あいさつされる石川勝行市長さん

新居浜ユネスコ協会が主催し、イオンモール新居浜のサウスコートにおいて「平和の鐘を鳴らそう」が開催されました。この催しは、世界平和への願いを地域から発信するもので、今回で7回目となりました。

来賓として石川勝行新居浜市長、関福生新居浜市教育長、滝澤陽介イオンモール新居浜営業マネージャーが招かれました。

開会あいさつでは、青野正会長より「人種や国民性、文化の違いをお互いに認め合い、学びあって、手をつないで仲良くしましょう」と述べられました。

その後、平和の鐘をつき、メッセージボードに平和への誓いを書きました。

また、新居浜市立西中学校の合唱部生徒 26 名が平和宣言を暗唱し、清らかな合唱を披露してくれました。

さらに、新居浜西高校書道部 12 人による書道パフォーマンスも行われ、会場を訪れた買い物



客らは足を止め、音楽に合わせた統一感のある動きや筆さばきの迫力に魅了され、賞賛の拍手を贈っていました。

また本日 8 月 6 日は広島原爆忌でもあり、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」（ユネスコ憲章前文より）平和への誓いを新たにした日でもありました。



あいさつされる関福生教育長さん



新居浜西高校の書道部パフォーマンスの様子



平和の鐘を鳴らす様子



私の平和宣言を書いている様子

#### (42) 別子銅山産業遺産創造塾【8月6日～8月7日】

一泊二日の日程で、新居浜市が主催する別子銅山産業遺産創造塾の3回目が開催されました。別子ハイツ自然学習館を拠点にして、端出場、山根、鹿森などの各地区を講師の方々から現地をご案内していただくフィールドワークを中心に研修を行いました。

1日目、午前中は、山根地区の別子銅山記念館において田尾邦雄館長さんより「別子銅山の歴史、住友企業の功績と現在」などについて、記念館の展示資料を説明していただきながらお話をお聞きしました。別子銅山の約300年に及ぶ歴史を噛み砕いて分かりやすく解説いただき、先人たちの知恵や努力のすばらしさを感じることができました。

昼食を挟み、午後からは端出場地区のマイントピア別子に現存する産業遺産や観光坑道を観光ボランティアガイドで私たちがいつもお世話になっている谷口淑子さんが案内してくださいました。谷口さんの勤勉さに裏打ちされた説明は大変興味深く、今後私たちがガイド務める際の貴重な資料にもなりました。

その後、山根地区へ戻り旧山根製錬所跡のえんとつ山へ登る予定でしたが、雷雨のためやむなく中止となり、室内でえんとつ山倶楽部の方たちと懇談させていただくこととなりました。これまでの活動の経緯やえんとつ山やその周辺の環境整備、世界遺産に向けた思いなどについて、熱くお話をいただきました。また、受講生もそれぞれの思いや考えを述べさせていただきました。

夕食を挟み、夜はリージョナルデザイン株式会社の安孫子尚正さんより、まとめ学習として、ポスター作成について解説してくだり、各グループでのポスター作りに取り組みました。

2日目、午前中は鹿森地区へフィールドワークを行いました。

鹿森社宅元住民の河野義隆さんに現地を案内していただきながら、現存している近代化産業遺

産の説明や当時の人たちの暮らしぶりなどをお話いただき、当時の面影を現在の風景と重ね合わせて学ぶことができました。

午後は、鉱石運搬の施設「チッピー」について、河野さんが再現した模型を用いながら詳細に解説していただきました。貯鉱庫の仕組みについても模型を作成されるなど、目で見て体験して学べるように教材を作成されており、今後私たちも別子銅山の近代化産業遺産を再現するものづくりにも取り組めるヒントをいただくことができました。

その後、昨晚の続きでポスター作りを行い、二日間に渡った講座を終了しました。

机上での学習だけではなく、フィールドワークで現地を訪問したり、鉱山体験者や最前線で活動されている方々との生きた学習を通して、本当の学びをさせていただいていると感じます。

8月19日には審査が行われます。お世話になった皆様へのご恩をお返しするべく、受講者全員の合格を目指します。



谷口淑子さんが説明される様子



えんとつ山倶楽部の皆さんと熟義の様子



鹿森社宅跡を案内される河野義隆さん



西・南高校混成チームのポスター作りの様子

#### (44) 別子銅山近代化産業遺産創造塾 適正審査・認定証授与式【8月19日】

新居浜市役所において、今年度の別子銅山産業遺産創造塾の適性審査および認定証授与式が行われ、入塾生12人（新居浜南高校11名、新居浜西高校1名）全員が適性審査を合格し、石川勝行新居浜市長より認定証が一人一人に手渡されました。

本塾は6月にスタートし、宿泊を伴った計4日間の研修を行いました。

本日その成果を試すために、筆記試験およびポスター発表による適性審査が行われました。

始めの筆記試験では、研修で学んだことを中心に出題され、難問もあったが全員が合格し、1名満点合格者も出ました。

続いてのポスター発表では、研修中にグループごとに別子銅山の近代化産業遺産を活かしたまちづくりをテーマにポスター作成したものを市長や審査員の前でプレゼンテーションしました。

適性審査の審査中、市長さんと懇談する特別な時間が設けられ、ポスターの内容をさらに詳しく話したり、高校生からの視点に立った提案や質問などをさせていただきました。

始めは少し緊張した雰囲気でしたが、市長さんの温かいリードにより、次第に柔らかい雰囲気となり、ざっくばらんなやり取りが行われ、冗談も飛び出すほどでした。



提案の中には市長と高校生が同様の考えのものもあり、驚きとともに市長をさらに身近に感じる機会ともなりました。

最後に、適性審査全員合格の発表があり、市長さんから認定証と記念の銅板プレートを授与され、記念撮影をさせていただきました。

研修で学んだことを活かしていけるようシビックプライドを胸に、『第二の鷲尾勘解治』を目指します。



プレゼンテーション審査の様子



市長さんと共に認定記撮影

#### (45)『銅山人の詩～戦争体験者からの聴き取り調査～』【8月4日】

ユネスコ部では、そのスタッフとして会場の準備や受付、館内の案内などを務めさせていただきました。

来館者との対話と交流をもてる貴重な機会ともなりました。中には、それぞれの分野に詳しい方もおられ、私たちが学ばせていただく機会も多くありました。

また、夏休みの宿題を解決しようと訪れる親子連れの姿も多く見られました。そして、熱心にメモを取る小中学生や資料をたくさん持ち帰っていました。この展示会がふるさと学習にとっても最適な機会ともなっていたと思います。

来館者が一日中絶えることがなく、リピーターの方もおられるなど、市民の関心の高さをうかがうことができました。

これまで、展示会場は市郷土美術館で開催されてきましたが、建物の老朽化により解体されることとなり、市立図書館での開催となりました。

展示会場となった多目的ホールは、講演会などでの使用は多いようですが、展示会場として利用するのは初めての事だとのことでした。

会場周辺は緑に包まれており、森の中の展示場のような落ち着いた空間となっています。

期間中、2,100名を超える入場がありました。



展示会場内の様子



ガイドを務める部員の様子

#### (46) 教員のための博物館の日2016【8月23日】

愛媛県総合科学博物館において、「教員のための博物館の日 2016」が開催（同館主催）されました。

その中で「東予の誇れる産業遺産（たから）」講習会（愛媛県東予地方局主催）が実施され、ユネスコ部員と部顧問が活動について発表させていただきました。

講習会は、東予管内の小・中学校における「ふるさと学習」の充実を図るとともに、別子銅山をはじめとした地域の産業遺産への理解を深めることにより、地元意識（シビックプライド）の醸成を図ることを目的としています。

東予地区の小・中学校さらには高校の教員約40名が参加されました。

本講習会は2部構成となっていて、第1部は愛媛県総合博物館学芸課科学・産業研究グループの吉村久美子担当係長から「別子銅山」の産業遺産について、総括的に解説がありました。

その後、私たちが発表させていただきました。

はじめに、ユネスコ部員より、別子銅山の近代化産業遺産を地域の宝として学習・情報発信し、地域づくり活動を実践していること、部顧問の河野義知教諭からは学校現場での近代化産業遺産の活用事例について紹介や解説をさせていただきました。

まとめとして、部員一人ひとりから、活動を通して自分が成長できたことについて発表させていただきました。参加者の中には、部員が小・中学校時代にお世話になった恩師の姿もあり、その活躍ぶりを喜んでいただくこともできました。そして、さっそく出前授業のご依頼もいただくなど、「学びの絆サイクル」の輪が広がり始めるチャンスの機会となりました。



部顧問による活動発表の様子



部員による活動発表の様子

#### (47) 別子銅山を読む解説講座「住友の歴史から」【9月3日】

別子銅山記念図書館において別子銅山を読む解説講座の今年度の3回目が開催されました。

今回御紹介いただいた書籍は「住友の歴史から」（住友商事株式会社著）でした。

講師は元別子銅山文化遺産課長の坪井利一郎さんが務められました。

はじめに坪井さんから、本書籍は住友商事の職員研修用のテキストとしてまとめられたもので、別子銅山についてこんなにコンパクトにまとめられた冊子はないとご紹介がありました。コンパクトながら、歴代の総理事も網羅され、最も良いテキストと評されました。

坪井さんは、平成10年に南米ボリビアのサンクリストバス鉱山の関係者を旧別子へご案内されたのが契機となり、住友商事の職員研修の現地案内を7年務められています。

昨年は銅山峰まで12回登山されたとのことで、社員は事前学習としてこの冊子を読んでから登山されるそうです。

本冊子は、昭和52年1月から昭和54年3月の期間、住友商事の社内ニュースに12回掲載されたものを、昭和54年12月に本として発刊されました。その後、平成17年12月に改定され、現在に至っています。

加えて、初代住友家による文殊院旨意書の説明や別子銅山開坑200年（明治23年[1890]）を記念に作成された版画「別子銅山図」に記されている「別子銅山の記」についても詳細で分かりやすく解説をいただくなど、大変貴重な講座となりました。





講演される坪井利一郎さん



講演を拝聴する生徒たち

#### (48) ペルー駐日大使、チンチェロ市長の別子銅山視察ご案内【9月10日】

ペルー駐日大使エルラド・エスカラ氏 チンチェロ市長グアルベルト・サジョ・ウアルパユンカ氏が別子銅山の東平を視察され、ユネスコ部員がご案内させていただきました。ご案内役を務めたのは部長の寺尾遥さんと副部長の永易舞さんでした。

両氏は、ペルーと新居浜市の友好の調印と9月10日から10月18日までの期間、あかがねミュージアムにおいて「大アンデス文明展～東洋のマチュピチュの麓にて～」の開催の為にご来市されました。

エルラド氏は2013、2015年に続き3度目、グアルベルト氏は初めての来市となりました。

朝9時にあかがねミュージアムでお二人をお向かえしました。ちょうど、ミュージアムの正面玄関芝生広場には、ペルーを代表するアルパカが来ており、記念撮影をさせていただきました。さながらここがペルースポットになったようでした。

その後、ジャンボタクシーで東平へ向かいました。

最初に第三地区を訪れ、第三通洞をご覧いただきました。東平視察三度目となるエルラド氏もこの場所は初めて訪れる場所でした。

ところで、この第三地区に採鉱本部が置かれたのが大正5年(1916)で、今年がちょうど100年目となります。このような節目の年に、お二人をこの場所にお迎えできたことは、とても意義深いことだと思います。

さらに、旧第三変電所、火薬庫跡などもご案内させていただきました。

そして、東平歴史資料館へ移動し、東平紹介のビデオをご覧いただいた後、館内の展示物についてご案内させていただきました。時折クイズも出題させていただき、楽しみながらご覧いただくことができました。また、両氏はそれぞれの展示物を興味深くご覧になり、グアルベルト氏は30キログラムの荷物を担ぐ仲持体験も楽しめました。

そして、いよいよ『東洋のマチュピチュ』をご案内させていただきました。

両氏とも熱心に部員たちの説明に興味深くお聴きくださいました。その際、部員たちがマチュピチュを訪れて、世界遺産登録に至った経緯や関係者にお逢いしたいとのご質問をさせていただくと、その時には当地の文化庁等の関係者を紹介してくださるとの光栄なお話までいただくことができました。

その後、マイントピア別子に移動し、昼食までご一緒させていただきました。その際に、日本からマチュピチュまで行くのにかかる時間や観光に良い時期、チンチェロ市の人口、エスカラ氏が日本で好きな食べ物、グアルベルト氏が来日された回数、私たちの進路の話題まで、ゆったりとしたお時間をご一緒させていただくことができました。

ガルベルト氏からは、チンチェロ市に来られたら、町をあげて歓迎くださるとの嬉しいお言葉までいただきました。

最後に、部員たちの制作した英語版のガイドブックをお土産にプレゼントし、とても喜んでいただきました。

こんなにも充実した貴重な機会をいただくことができ、感激で胸がいっぱいです。このような素晴らしいチャンスをくださった新居浜市関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

いつの日か、本物のマチュピチュへ行きたいと思います。



あかがねミュージアム前で  
ペルー駐日大使エラルド・エスカラ氏と記念撮影



第三通洞について説明している様子



「東洋のマチュピチュ」の前で記念撮影  
右から二人目がグアルベルト氏



英語版のガイドブックをプレゼント

#### (49) 惣開公民館 観月会【9月17日】

惣開公民館主催による観月会が開催されました。昨年に続き、2回目の開催となりました。

ユネスコ部は「そうびらき未来への鉤脈」と題して、別子銅山が始まった山中から星越・惣開地区に至る歴史についてクイズを交えながら発表させていただきました。昨年に引き続き、ユネスコ部員の2年次生7名が参加させていただきました。



いもだきをいただいている様子

惣開公民館に到着後、まずは恒例の芋炊きをご馳走になりました。

今年も発表の舞台は小学校のグラウンドでした。今年は大型トラックに設置されたスクリーンに投影しながら発表となった。発表には、惣開地区住民の方がたくさんお越しくださり、興味深々で熱心にご覧いただきました。クイズの際には、小学生が元気よく答えてくれました。

発表の後は、観月会のお世話をされていて本校卒業生でもある伊藤泰さんが制作されたビデオ



グラウンドでの発表の様子



が上映され、私たちの発表の振り返りをしながら、別子銅山が惣開地区に果たした役割を住民の皆さんに改めて学ばせていただきました。

今年は、あいにくの空模様でお月様を見ることはできませんでしたが、フィナーレには、小学生の明るく元気なダンスや、大仕掛けの花火が打ち上げられるなど、昨年にも増して盛大な観月会となりました。

来年度もぜひ参加させていただき、さらに工夫を重ねて、より別子銅山を楽しく学んでいただく内容にしたいと思います。惣開公民館の皆様には、今年も貴重な機会をいただき、心より感謝申し上げます。

#### (50) 角野小学校 5 年生登山事前学習【9 月 23 日】

新居浜市立角野小学校の 5 年生児童 100 名を対象に出前授業を行いました。

今回、角野小学校の ESD の取り組みとして、別子銅山への登山学習が予定されたことを受け、ユネスコ部の 2 年次生 7 名が小学校を訪問させていただきました。

普段行っている中学生向けのプレゼンテーション「BESSHI QUEST」を小学生向けに改良して実施しました。

別子銅山を探検しながらのプレゼンテーションを児童の皆さん全員が熱い視線で説明を聞いてくださり、質問やクイズにも大きな明るい声で答えてくれたおかげで、大変楽しく別子銅山を学ぶことができました。ただ、私たちのほうが当初予定していた時間より、プレゼンテーションが早く終わってしまうというハプニングもあり、学習の振り返りクイズなどで時間調整を何とか図る工夫をしましたが悔いの残る結果となってしまいました。

児童の皆さんには今日の学びを実際の登山の際に活かして、安全で楽しい学習にしてほしいと思います。私たちは、今回のことを次に活かせるよう、様々な対策を練ります。



元気よく手を挙げる児童の様子

#### (51) 東平・第三地区および端出場地区の現地取材活動【8 月 29 日】



夏井いつきさんと記念撮影



生徒がガイドしている様子

夏井いつきさんの俳句ライブ（新居浜市観光協会主催）が東平で開催され、約 140 名が参加されました。この句会ライブは昨年からはまり、今年で 2 回目となりました。

その参加者のご案内をユネスコ部員、ユネスコ委員、課題研究で別子銅山を学んでいる生徒、ボランティア生徒といった編成で総勢 9 名が担当させていただきました。

課題研究の生徒などは、ガイドが初めてとなることから、事前に現地研修を行い、ガイド内容を作成してユネスコ部員からアドバイスをもらうなど準備を進めてきました。

今年の東平は、心配していた雨に降られることはありませんでしたが、霧の多い中での開催となりました。

始めに、夏井いつきさんから俳句の作り方についてポイントを分かりやすく教えていただい

た後、6 班に分かれて出発しました。

今年の案内は、あらかじめ各ポイントに待機してご案内をさせていただくスタイルとしました。

始めは戸惑いもありましたが、回を重ねるうちにだんだんとなれてきて、お客さんの温かい助けもいただき、何とか務めを果たすことができました。

昼食後、マイントピア別子にて開催された句会ライブでは、夏井さんが選ばれた句が紹介されました。その中には、高校生のガイドをヒントに詠でいただいたものも多く、とても光栄でやりがいや大きな達成感がありました。

不安いっぱいの中でのチャレンジでしたが、それぞれが自分の持てる力を精いっぱい出し切ってくれたことが、この成果につながりました。

そして、来年度本校が地域共創系列を立ち上げていく中で、大変意義のある実践につながったと思います。

#### (52) 別子銅山モニターツアー【10月8日】

愛媛県東予地方局と新居浜市が主催した別子銅山モニターツアーが初めて開催され、愛媛大学 22 名、外国人留学生 10 名が参加されました。

そのツアーの山根地区と端出場地区のご案内をユネスコ部が務めさせていただきました。

始めに、ご一行を山根公園でお出迎えをしました。

開会式では、東予地方局地域政策課の山本泰士課長さんのごあいさつが流暢な英語で行われました。

そして、私たちが作成した日本語と英語版の二か国版ツアーブックを配布させていただき、自己紹介と副部長の永易舞さんによる手製のパネルを使ったユネスコ部の活動紹介を行いました。

いよいよガイドが開始、山根地区では、山根製錬所跡の煙突や山根グラウンド、別子銅山記念館などについて紹介させていただきました。

その後、学生の皆さんと一緒にバスに便乗させていただき、マイントピア別子へ向かいました。バスの中では、大学生活や自分たちの高校生活、さらには進路などについてもお話しができ、貴重な機会ともなりました。

マイントピア到着後、さっそく観光坑道をご案内させていただきました。皆さんは私たちの説明に熱心にメモを取られたり、積極的に質問してくださったり、写真を撮影されました。皆さんが真摯に学ぶ姿は、私たちにとって大変やりがいを感じることができました。また、その姿を拝見して、私たちも多くのことを学ばせていただきました。

さらに、今回新居浜ガイドクラブの方たちも案内を務められ、新居浜市には外国の方への案内も充実していることも知ることができました。

将来は、私たちも外国語で少しでもご案内できるようさらに学んで行きたいと強く感じました。



山根地区でのガイドの様子



マイントピアでのガイドの様子

#### (53) 「第 39 回 ESD 中学高校連携事業「別子銅山を学ぼう！」新居浜市立川東中学校【10月21日】

新居浜市立川東中学校体育館において、1 年生 191 名を対象に別子銅山登山事前学習を行った。2 年次生のユネスコ部員 7 名が講師を務めさせていただきました。

川東中学校は新居浜市内で最も生徒数が多い学校である。皆さん体育館に整然と並ばれ、私たちの説明やプレゼンテーションの画面を食い入るように熱心に見てくれました。また、クイズや



質問にも積極的に参加し、楽しく別子銅山について学んでくれました。

最後に、今回リーダーを務めてくれた生徒から「分かりやすい説明で、登山が楽しみです。」と感想をいただきました。

また、校長先生も全ての発表をご覧ください、「ハチや蛇などの対処方法なども入れてくれていたので良かった。」との感想や「今後もユネスコスクール同士の連携をさらに深めて行きたい。」との光栄なお話もいただきました。



自己紹介の様子



出前授業の様子

#### (54)「ライフスタディⅡ」課題研究

『あかがねの道～別子銅山の先人達の生き様からESDを学ぶ～』

愛媛県総合科学博物館【9月22日】

総合分野では7回目のフィールドワークとして愛媛県総合科学博物館を訪れた。

博物館の屋外展示場には、四阪島で稼動していたGF転炉やからみ電車の実物が保存されている。本物を目の前にして、稼動時の様子を想像しながら見学した。転炉の大きさに圧倒されたり、からみ電車の敷石にからみが使われていたり、面白い発見もあった。からみの中にはまだ銅成分が含まれて緑青が現われているもあり、驚いた。

さらに、館内の常設展も見学させていただいた。別子銅山のコーナーでは、ダイナマイトを仕掛けてあるジオラマの迫力に釘付けになり、その様子から先人の苦労や知恵を知ることができた。



GF転炉見学の様子



ジオラマの見学の様子

#### (55) 別子山自然フォーラム【10月30日】

新居浜市別子山において別子山自然フォーラム（同実行委員会主催）が開催され、ユネスコ部員2年次生7名が参加しました。

晴天に恵まれ、遅めの紅葉を始めた別子の山々も展望できる中、午前中は別子山森林公園ゆらぎの森で開催された自然植物観察会へ参加させていただきました。

地元だけではなく、高知県からも小型バスをチャーターして団体の方々が多数参加されるなど、たいへん盛況に開催されました。

自然観察指導員の神野幸正さんが案内役を務められ、広島国際大学医療栄養学部教授の神田博

史先生に解説していただく中、1 時間余りかけて景観を楽しみながらゆったりと観察して行いました。園内の草木の名称や特徴についてユーモアを交えながら分かりやすく紹介していただき、驚きや発見の連続でした。特に、草木の名称の由来には文化があるとのことのお話は大きな発見があり、先人の知恵の結晶だと感動しました。少し、植物博士になれた気分でした。

午後からは、別子山公民館において特別講演会が開催されました。

講演会に先立ち、開会あいさつで、実行委員会委員長の和田輝世伸さんより「別子山村が新居浜市と合併して 13 年半、当時より人口が 100 名近く減少し、現在 163 名となり、80 歳以上の高齢者も 38 名となった。そのような中で、平成 26 年からはメイプルシロップや高麗ニンジンなどの栽培などを始めた。今回のフォーラムを通して、別子山の自然や産業遺産の活用への一歩としたい。」とのことをお話をいただきました。

続いて、石川勝行新居浜市長さんから、「これまでも、様々な取組をされているが、今回のフォーラムをヒントにして、さらなる別子山の地域再生に尽力していただきたい。」との祝辞が述べられました。

その後、三つの特別講演が行われ、一つ目は「オタネニンジン（生薬人参）の話」として、(国)医薬基盤・健康・栄養研究所 薬用植物資源研究センター客員教授の柴田敏郎先生のご講演がありました。生薬人参の流通状況やオタネニンジンの国内での栽培状況やその技術、中国での栽培の様子なども紹介いただき、別子山での栽培についての期待や今後のことについてのご示唆をいただきました。

二つ目は、午前中の自然植物観察会でもお世話になった、神田博史先生による「別子は笑葉でガッチリ健康寿命」としてご講演いただきました。先生は、健康寿命や食生活や風土などの生活習慣の大切さ、徳川家康の長寿法、漢方医療など様々なお話をユーモアたっぷりにお話され、会場を笑いの渦に巻き込まれ、楽しくて分かりやすくお話しくさしました。

最後は、「赤石山系の植物」として愛媛県総合科学博物館学芸員の川又明憲先生がご講演されました。特に、ツガザクラのお話は、今年から保護活動に取り組んでいる私たちにとって、大変貴重な機会となり、今後の活動に活かしていただけるものとなりました。また、先生の研究されている地衣類について、「別子山の地衣類は、県下で最も多い場所である。」とのことのお話は、別子山のさらなる宝物が増えたように感じました。地衣類そのものの研究も併せて、今後さらなる可能性を感じることができました。

今回のフォーラムに参加させていただき、別子山地区の方々皆さんが、まちづくりに熱い情熱を注ぎこまれていることがよく分かりました。今回のことをきっかけに、私たちにとってどのようなことがさせていただけるのか、考えて行きたいと思います。



自然植物観察会の様子



特別講演会の様子

#### (56) 平成 28 年度 ESD 環境教育プロジェクト事業中間報告会【11 月 14 日】

昨年度に引き続き、今年度も ESD 環境教育コーディネーターをお引き受けいただいた鳴門教育大学特命教授の近森憲助先生にご来校賜り、本校校長室にて、村上敏之校長と河野義知教諭が中間報告を行いました。

特に今年度は、昨年度の活動に加えて、ツガザクラの保護活動を取り入れたことについてご報告させていただきました。

また、これまで多くの活動をユネスコ委員が担ってきた経緯がありましたが、今年度からは生



徒会活動の中にユネスコ委員会を新設し、各クラスからユネスコ委員を選出することになったことをお話させていただきました。

そのことで、より多くに活動の機会が提供できるようになり、ユネスコ委員の中からがクラスの活動以外に、ツガザクラ保護活動など校外での活動も担う生徒が現れて、予想をしていたように活動のすそ野を広げられることができたことも合わせてご報告させていただきました。

近森先生からは実践からの学びが大切なこと、校内的にも活動の広がりが見られている点についてご評価いただきました。



取組みについて話し合われる様子  
(左：村上敏之校長 右：近森憲助先生)

**(57) 東京大学大学院教育研究科教授 牧野篤先生 講演及びスキルを磨く研修【11月17日】**

新居浜南高校体育館において、「つながる・つくる・暮らし楽しむ～若者が主役のまちづくりと生涯学習～」と題して、全校生徒 354 名、教職員、保護者、地域住民等を対象に講演をいただいた。

現在の社会が抱える課題として「高齢化」「少子化」「人口減少」を示され、過去の量的なモデルにしがみついていることが問題だと指摘、これからの「社会」の大きなテーマはソーシャル：The Social（社会的）であることで、若者の役割についてお話いただきました。牧野先生が実践されている「日本再発信！若者よ田舎をめざそうプロジェクト」や富良野緑峰高校等の取組について具体的な事例をお話いただいた。

放課後は、講演を受けて、ユネスコ部員とのスキルを磨く研修も行っていた。その際には、新居浜市教育委員会の関福生教育長もご同席いただき、アドバイスをいただいた。部員たちは、自分たちの取組の意義や価値について気付くことができていた様子であった。そして、部員たちはユネスコ部の活動の重要性を認識して活動に取り組もうと気持ちを新たにすることができていた。

本校では、来年度より新系列として「地域共創」系列を立ち上げる。若者が地域と関わることで、持続可能な地域を創るためのヒントを沢山いただくことができた。



牧野篤先生講演の様子



スキルを磨く研修の様子  
(左側：牧野篤先生 右側：関福生教育長)

**(58) 第1回「百年の計、新居浜シビックプライド創造委員会」【12月6日】**

「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」の一環として、首長部局 17 名、学校・企業・団体等の関係者 12 名の計 29 名で組織した初めての「百年の計、新居浜」シビックプライド創造委員会」を新居浜南高校会議室において開催しました。

開会式において、関福生教育長から「この事業は、今まで進めてきたユネスコスクールや ESD の学びなどを将来にわたって長くつなげていくための 1 つの仕組みである。新居浜南高校は、情

報科学部からユネスコ部を経て、来年度は地域共創系列という新しい学びが進んでいくような取り組みを積み重ねてき。はじめは、コンピュータの世界の中で情報を世界へ発信するという取り組みを進めていたが、それが別子銅山からいろいろなところに波及し、市民を巻き込んだ1つの新しい波がこの中にうねっているのではないかなと感じる。新居浜市として、高校生の若い力をまちづくりの中に生かしていくという視点も非常に大事なことだと思う。今回、さまざまな新居浜市の各分野で活動されている方々がこの中に加わってくれることによって、そして鳴門教育大学の近森先生をはじめとするいろいろな知見を得られることによって、ますます新居浜南高校の今までの活動が素晴らしい新居浜をつくっていく礎になることを願っている。おそらく、この事業は来年度も継続していくと思うが、新居浜南高校を1つの核にして、新しい新居浜づくりのきっかけづくりの場になれば素晴らしいと願っている。新居浜市役所の職員もつながっていくことが自分の仕事を考える上でも大きな意義を持ってくると思うので、こういったものを1つのきっかけにして、よりいいネットワークづくりができるようなそんな新居浜市役所にしていければいいなと思っている。」とごあいさついただきました。

実践校である新居浜南高校の村上敏之校長から「多数の皆様方のご出席いただき、第1回シビックプライド創造委員会が開催できますこと大変光栄に思う。ご案内のように、本事業につきましては新居浜市から多大のご援助をいただき、地域の皆様にも密接な関係を持たせていただきながら、さまざまなことを展開してきた。ユネスコ部は秋田へ研修視察を行った。さらに地域との様々なつながりを持った活動も活発化してきた。本校では、来年度から地域共創系列を設置することを愛媛県教育委員会から承認され、学校の授業の中で、カリキュラムの中でESD、あるいは地域貢献型学習、地域体験型学習を学べるようなカリキュラムになる。そして、同じく文部科学省からの委託事業である「ESD形成事業輝けサステナブルスクール事業」に7月に応募したところ、9月に認定を受け、向こう3か年間活動を行う。さらに、ESDユネスコスクールとしての様々な活動を展開してまいりたいと考えている。皆様からは様々なご指導・ご助言を賜りますようお願い申し上げます。」とごあいさついただきました。

その後、新居浜南高校総合学科課長の河野義知教諭より事業概要や現在までの活動経過について報告がなされました。

質疑応答の中で特に、鳴門教育大学特命教授の近森憲助先生から「非常に多様な活動をされていることは、以前から存じ上げていたが、かなり活発に新居浜市内だけではなく、新居浜市外へも行き、学びを広げているということをお聞きして改めて感服している。教育学から考えると、これまでの取組による効果ということで、「視野の広がりやコミュニケーション能力が高められた」、「シビックプライド（愛着心や誇り）が芽生え始めてきた」、「まちづくりへと意識が深化してきた」などの効果は出てきていることは、感じられていると思うが、例えば、高校生として、一般の教科（理科、英語、数学など）への波及効果はどうだろうか。新居浜南高校の1つの特徴として、本事業は非常に重要な活動ではありますが、一方で高校生として身につけておくべき基礎的な知識やそれらを学ぶ意欲へうまくポジティブにどう影響を与えているのだろうか。高校教育の全体として、こういった効果が生まれているのかという視点も、実際に担当されている先生方に持っていただけたらと思う。一般教科のテストの成績や授業態度、欠席日数の減少、遅刻早退の減少など、一般的な態度変容・学力変化についても同時にデータをとると良いと思う。そうすることで、校内の先生方の意識が変わってくるのではないだろうか。以前は、ユネスコ部がメインで活動している事業で、ESDなどについて、特別なものとしてしか捉えられてないような状況の中で、例えば、一般的な教育活動の中に良い効果を与えるんだということを実証的に。すべての先生方が「生徒が変わってきたな」という感覚が出てくると、学校全体としてだんだんと上へ向いていくのではないだろうか。ユネスコ部の活動が突出していることだけが新居浜南高校の特徴と言われるだけではなく、全体として学校教育の質が上がってきているというようなところを今後見ていただけたらいいかなと思う。スポーツでもウエイトリフティングなど良い成績があり、全体として新居浜南高校のいろいろな活動をすべて改善され、発展してきている状況が実際に見えてくると、他の高校あるいは小中学校、そういったところにも非常に良い効果が出てきて、全体として新居浜市の学校教育活動が発展していく1つの良いモデルを提供していただければと思う。全国的に見ても、ESDやユネスコスクールになったことをきっかけにして、学校の中の状況が非常に改善されてきた事例が結構ある。私としては非常に理想的だなと思っている。そういった活動をしていくわけだから、その活動だけではなく、全体として生徒がどう変わってきているのかということを見ていただけたらなと思う。」とアドバイスをいただきました。



第1回『百年の計、新居浜シビックプライド創造委員会』参加者名簿（順不同）

新居浜市関係者

1	新居浜市	教育長	関 福生
2	別子銅山文化遺産課	係長	濱岡 里枝
3	地域コミュニティ課（まちづくり協働オフィス）	課長	岡松 良二
4	環境保全課	主査	田村 淳
5	運輸観光課	係長	越智 美保
6	別子山支所	所長	藤田 和則
7	学校教育課	指導主幹	井上 美樹
8	スポーツ文化課	副課長	高橋 洋毅
9	惣開公民館	主事	明日 博美
10	泉川公民館	館長	原田 脩三
11	角野公民館	主事	小野 典子
12	別子山公民館	主事補	曾我 孝広
13	惣開校区連合自治会 新居浜市議会	会長 議員	藤原 雅彦
14	広瀬歴史記念館	係長	土岐 幸司
15	別子銅山記念図書館	館長	横井 邦明
16	地域コミュニティ課	係長	尾藤 秀行
17	地域コミュニティ課	主事	平田 遥

学校・企業・団体・行政等関係者

1	国立大学法人鳴門教育大学	特命教授	近森 憲助
2	新居浜ユネスコ協会	事務局長	藤野 卓郎
3	東予信用金庫	理事	久保 朋子
4	新居浜まちおこし委員会	委員長	西原 洋昂
5	新居浜商工会議所産業振興部産業創出課 新居浜ユネスコ協会	課長 事務局次長	矢野 英司
6	新居浜青年会議所 （2017年 理事長就任予定）	理事	伊藤 泰
7	愛媛県東予地方局地域政策課	課長	山本 泰士
8	愛媛県総合科学博物館学芸課	担当係長	吉村久美子
9	愛媛県立新居浜南高等学校	校長	村上 敏之
10	愛媛県立新居浜南高等学校	教頭	加地 雅彦
11	愛媛県立新居浜南高等学校	事務長	馬越 真二
12	愛媛県立新居浜南高等学校	教諭	河野 義知



関福生教育長さんあいさつの様子



村上敏之校長先生あいさつの様子



近森憲助先生からアドバイスをいただいている様子



会場全体の様子

#### (59) 高校生と一緒に別子銅山を探検しよう！in 角野【12月16日】

新居浜市角野公民館が主催して、角野小学校 6 年生 114 名が学校周辺にある別子銅山の産業遺産を高校生と一緒に巡りました。この取組は今年で 12 年目となります。案内役は、本校ユネスコ部員 10 名が務めました。また、道中の安全見守りとして、ユネスコ委員、別子銅山をテーマに課題研究や図書館学習会の参加生徒など 6 名がボランティアで参加しました。さらには、角野地区のみなさんも見守り隊としてご参加くださり、世代を超えた交流の機会となりました。

4 つの班で学校を出発し、山根収銅所やえんとつ山、山根グラウンド、別子銅山記念館などを巡りました。小学生は高校生の案内に興味深く聴き入ってくれました。特に、山根収銅所での水処理の実験では、身を乗り出すように熱心に説明を聴いていました。高校生と小学生、見守り隊の皆さんとお互いに会話が弾み、楽しく学びを深めることができました。

予定を越えた 2 時間余りのフィールドワークとなりましたが、ボランティアの高校生や見守り隊の皆さんのおかげで、みんな元気で無事に終わることができました。



えんとつ山に登る様子



水処理実験の様子



## (60) ユネスコ部台湾視察交流事業【12月18日～12月21日】

新居浜ユネスコ協会主催によりユネスコ部員を台湾へ派遣する視察交流事業を開催していただきました。

ユネスコ部員の寺尾遥さん、谷下華さん、永易舞さん、顧問の河野義知教諭が派遣され、新居浜ユネスコ協会からは、会長の青野正さんを始め、副会長で愛媛県議会議員の古川拓哉さん、会員の小野正師さん、武田松人さん、尾藤一彦さん、吉田達哉さんにご同行いただきました。そして、本校同窓会である南嶺会のご支援もいただきました。

目的は、台湾の高校生との交流や鉱山の跡地、人気観光スポットを訪れるなど、台湾の風土や文化を自分たちの肌で感じることでした。

初日、生徒たちは初めての海外旅行で楽しみと不安が半分半分といった面持ちでした。広島空港での出国手続きでは、多少手間取った場面もありましたが、無事にフライトすることができました。

台湾の桃園空港へは約二時間の飛行時間でした。思ったより近く、また時差も一時間ほどで、台湾を身近に感じることができました。

空港からはバスで移動しました。車窓からの風景でまず飛び込んできたのが漢字で書かれた様々な看板でした。近代的な建物と昔ながらの原風景が同居するなど、なんとなく昔の懐かしい風景に感じました。

台北のホテル到着後、町並みを散策し、台北市最古の仏教と道教の寺廟（神社）で 1738 年に建立された龍山寺を訪れ、独自の宗教世界に触れることができました。

その後、台北 101（台北国際金融ビル）を見学、ちょうどクリスマスの飾り付けがなされ、多くの人が訪れ華やかな雰囲気でした。このビルは高さ 508 メートルあり、2004 年から 2008 年までは世界一の高さを誇っていました。最上階までのエレベータは大変な込みようで、残念ながら登ることはできませんでしたが、生徒たちは海外での初めてのショッピングを思う存分楽しむことができていました。

そして、夕食は、生徒にとって初めてのターンテーブル式での中国料理をいただきました。



初めての海外旅行です（広島空港にて）



ユネスコ部台湾視察交流関係者



龍山寺にて



背景の高層ビルは台北 101

2 日目は、国立鹿港高級中学（以下、鹿港高校）との交流でした。

台北駅から新幹線で約 50 分かけて台中駅へ、さらにタクシーに乗り換え、約 50 分かけて到着しました。正門では先生方や生徒たちが歓迎の横断幕を掲げて出迎えてくださいました。

鹿港は、かつて台湾第二位といわれた港町で、鹿港高校は町唯一の高校です。生徒数は約 1400 名で、校舎もエレベーターが完備され、校舎建物内には大きな庭があるなど、近代的で大規模な高校で驚きました。

今回、鹿港高校との交流については、愛媛県の国際交流課に推薦していただき、大変お世話になりました。

また、台湾の高校で日本語の教師をなさっている林美琴さんに通訳をしていただき、きめ細やかなご配慮のおかげで、両校の交流事業がスムーズに行え、素晴らしい友好の架け橋となってくださいました。

初めに、林宣賢校長先生から、「今回のことをチャンスにして交流を深めて行きたい」とごあいさつをいただきました。そして、新居浜太鼓祭りの刺繍を記念品としてお渡ししました。台湾の方が好まれる赤地に金の刺繍を施したものでしたので大変喜んでいただけた。なお、この刺繍は本校同窓会長の（株）前川にて制作いただきました。

その後、林校長先生から学校の概要や特徴的な取り組みなどについてご紹介いただきました。そして、本校生徒から、愛媛県、新居浜市、別子銅山や本校の取り組みについて発表しました。



校舎前で記念撮影



交流記念品贈呈の様子  
(左から 4 人目が林宣賢校長先生)



ユネスコ部の活動報告の様子



水産養殖科で説明をしてもらっている様子

校内見学では、鹿港高校の生徒が案内してくれました。

図書館をはじめ、水産養殖科、商業経営科、国際貿易科、自動車科などでした。それぞれの場所で、生徒の皆さんが温かく迎えてくださり、各自で育てている魚の説明やレジ打ちの体験などをさせていただきました。

また、芸術陣頭部の皆さんからは、伝統的な踊りをご披露していただきました。当日は日差しが強く暑い中にもかかわらず、私たちが訪れるのをグラウンドで衣装姿のまま待ってくださっていました。いざその踊りが始まると、張り詰めた空気の中で、力強い舞をご披露くださり、その晴らしさに圧倒され感動の連続でした。



見学後は、昼食となり、学校の B 級グルメといわれる給食をいただきました。  
 その際に、両校の生徒同士での校歌を披露する場面もありました。  
 また、高校生同士で親睦を深める時間も持つことができ、英語なども駆使しながら会話を楽しみました。  
 さらには、LINE の交換を行い、ネットを通じて今も交流が続いています。  
 昼食後、今度は学校を出て、古跡解説部の生徒から町の史跡を案内していただきました。  
 とても熱心に勉強しており、興味深い話を聴くことができました。  
 原稿などは無く、身振り手振りで真剣にガイドしている姿に感動しました。私たちにその熱意が感じられたのは、高校生が自分の国の歴史や文化をしっかりと学び、自分の物にしていることの表れだと思います。  
 ユネスコ部でも別子銅山の観光ガイドを行っています、部員は大変良い刺激を受けることができました。



商業経営科でレジの実習を体験している様子



自動車科ではまさにアイドル！



芸術陣頭部による踊りの様子



芸術陣頭部の皆さんと記念撮影



昼食を交え歓談している様子



高校生に案内してもらっている様子



古跡解説部員が解説している様子



通訳でお世話になった林美琴さんと記念撮影  
(右から二人目)

3 日目は、鉾山観光地を中心とした見学を行いました。この日、観光ガイドを務めていただいたのは王賛福さんでした。日本語はもちろん英語も堪能で、特に日本文化にも詳しい方でした。王さんのガイド振りからは、お互いの文化を理解していることの大切さを教えていただきました。

始めに訪れたのは、台湾最大の滝である十分の瀑布でした。落差約 20 メートル、幅約 40 メートルもの自然が作り出した壮大な瀧の大きさに圧倒され、しばらくその景色に魅了されました。また、この場所は、かつて炭鉱としても栄えた場所で、石炭を積んだトロロッコの展示もあり、近くには鉾山鉄道の跡を利用した旅客用鉄道も走っていました。

さらに、十分に有名な観光であるランタンを飛ばす体験もしました。平和を象徴する青色のランタンにみんなの幸せの願いをこめて、晴れ渡った空へ勢いよく飛ばすことができました。

次に訪れたのは、猴（こう）どう炭鉱博物館でした。ここもかつて炭鉱の町でした。当時の建物がそのまま残されており、迫力のある風景でした。資料館には、精巧なジオラマも展示され、過去と現在を比較しながら学べるようになっていました。そして、ユニークなのは猫村と呼ばれるほど猫が多く、猫小屋や猫の休憩所、猫飛び出し注意の道路標識もあるほどの徹底ぶり、多くの人が猫と戯れていました。近代化産業遺産と猫のコラボが素晴らしいアイデアでした。

その後、九份へ向かいました。ここは、日本統治時代に金鉱で栄えた街で、ジブリ映画「千と千尋の神隠し」にも登場した日本でも有名な場所です。狭い路地沿いにみやげ物店や食べ物店が並び、台湾で最も古い映画館まであり、多くの人であふれかえっていました。

そして、最後に訪れたのが、黄金博物館でした。当時の施設を活用したおしゃれなカフェやレストランもあり、女性客が多く見られました。資料館では、当時の写真や工具などの展示に加え、当時の体験者のビデオが放映されており、日本語で「荒城の月」を歌われるシーンは心が震えました。観光坑道の見学では、当時の坑道が使用されており、入坑前にビデオで学習し、入坑時にもヘルメットをかぶるという徹底した体験型となっており、新居浜でも活用できる点が多く見つけられました。

夜は、士林市場の夜市へ出かけ、屋台での食事や買い物など、台湾の文化をさらに深く体験することができました。



ガイドでお世話になった王賛福さん



迫力ある十分の瀑布を背景に記念撮影





猴どう炭鉱博物館では産業遺産と猫がコラボ



猴どう炭鉱の石炭運搬用の橋



猴どう炭鉱のジオラマ



ランタン飛ばし体験



深紅の鮮やかな提灯が九份のシンボル



幻想的な世界の九份



黄金博物館の観光坑道入口にて



黄金博物館の観光坑道見学の様子



最終日は、世界四大美術館のひとつといわれる国立故宮博物院を見学しました。中国の宮殿を模した建物で、中国の歴史を伝える美術品や文物など総数 60 万点余りが収蔵されています。1 日では見て回れないほどの展示がある上、一度に展示できないため、半年に 1 回展示内容が変わるという驚くべき美術館でした。また、その展示物一つ一つが素晴らしいものばかりで、有名な翠玉白菜を見ることができました。さらに驚いたのは、象牙多層球で、球の中にさらに球の彫刻が施され、二十四層にもなるとのこと。これには人間の芸術性と技術力の高さにただ驚くばかりでした。



国立故宮博物院入口にて

今回の研修を終え、台湾の文化や歴史に直接触れ、多くの方たちとの出逢いも経験させていただきました。日本の統治時代もあることから、日本語もあちこちで使用され、コミュニケーションもスムーズに行うことができました。親日の方が多く、みなさん温かく優しく私たちを受け入れてくださいました。日本でここまでのおもてなしができるのかと、強く感じるほどでした。

特に、鹿港高校の先生方や生徒の皆さんには交流のためのご準備が大変だっただろうと拝察しました。

寺尾さん、谷下さん、永易さんは初めての海外旅行の中で、様々な貴重な経験をさせていただいたことは、今後の人生にとって宝物となることと思います。

今後、鹿港高校との交流を継続する中で、本校のより多くの生徒が関わりを持てるようになり、将来は姉妹校として共に発展できるように尽力して行きたいと思っています。

改めてこのような貴重な機会をいただいた、新居浜ユネスコ協会、南嶺会の皆様にお礼を申し上げます。



翠玉白菜



象牙多層球

#### (61) 鉱石の道推進協議会先進地視察【12月26日～12月27日】

2 日間の日程で、鉱石の道推進協議会事務局からお二人の方が別子銅山を視察されるため、兵庫県但馬県民局地域政策室地域づくり課の谷明彦氏、朝来市朝来支所地域振興課の松島豊氏のお二人がご来市されました。

兵庫県にある明延鉱山、神子畑鉱山、生野鉱山の三つのエリアは、平成 16 年に「鉱石の道」と命名され、平成 19 年には経済産業省の近代化産業遺産群に認定されています。そして現在は「鉱石の道」の日本遺産登録を目指されています。

1 日目は、始めにマイントピア別子端出場ゾーンを中心にご視察された。ユネスコ部員が観光坑道をご案内させていただきました。

部員が持ち場を分担して、パネルを用いたりクイズを出題するなど工夫してご案内させていただきました。また、内除鉄橋や第四通洞などもご案内させていただきました。お二人は、私たちの説明を大変熱心にお聴きくださいました。

昼食後、本校にもお立ち寄りいただきました。本校では、私たちのこれまでの活動のご報告も



させていただきました。また、日ごろの活動のことについての質問やお二人が取り組まれている  
鉱石の道推進協議会の取組についてもお聞きさせていただき、楽しく貴重な時間を過ごすことが  
でき 1 日目を終わりました。

2 日目、お二人は始めに新居浜市別子銅山文化遺産課を訪問され、課長の秦野親史さんより、  
新居浜市の取組についてご紹介をいただきました。

その後、旧端出場水力発電所内部を特別公開していただき、じっくりとご視察いただきました。  
本施設は現在一般公開に向けて準備が進められていますが、あと 3 年ほどかかる見通しとのこと。

その後、別子銅山記念館を視察され、昨年 11 月に新しく館長にご就任された永井誠司館長さ  
んより、別子銅山の歴史を紐解きながら展示品を説明され、館内をご案内いただきました。

お昼を挟んで午後からは、広瀬歴史記念館・旧広瀬邸を視察されました。

広瀬歴史記念館では、久葉裕可館長さんより広瀬幸平の生い立ちと別子銅山の近代化が果たし  
た役割などについて展示品を説明され、館内をご案内いただきました。

その後、旧広瀬邸はユネスコ部員がご案内させていただきました。ここでも、解説ポイントご  
とに部員同士で連携してご案内させていただきました。

最後に、星越地区に移動し、星越駅舎、星越選鉱場跡を見学し、さらに、元住友共電社長宅や  
元住友共電社監査役宅も秦野課長さんのご配慮で特別に公開していただき、内部を見学するこ  
うことができました。

この日はユネスコ部員にとっても、じっくりと学びを深める貴重な機会となりました。

今後は、この度のご縁を大切にさせていただき、私たちが、明延鉱山、神子畑鉱山、生野鉱山  
を視察させていただくなど、相互交流の機会も図って行きたいと思う。



観光坑道内のガイドの様子



学校にて活動について情報交換する様子



別子銅山記念館にて  
永井誠司館長さんの案内の様子



旧端出場水力発電所にて  
秦野親史課長さんの案内の様子

#### (62)「大鉷（おおばく）の唄奉納」の見学【平成 29 年 1 月 4 日】

「大鉷の唄奉納」が新居浜の大山積神社（別子銅山記念館）で行われました。もともとは「大  
鉷祭（おおばくさい）」と呼ばれ、別子銅山の銅鉱石と祝い歌を奉納する新年の伝統行事です。  
かつては、1 年間で最も良質の銅鉱石約 300 キロ（これを大鉷という）を鉱山労働者がしめ縄な

どで飾り付け、元旦に奉納していました。

昭和 48 年の閉山後途絶えていましたが、別子銅山開坑 300 年祭時に銅山勤務経験者でつくる「別子銅山親友会」が復活させ、今年で 28 回目となりました。復活後は、「大鉷（おおぼく）の唄奉納」として、しめ縄などで飾り付けた約 2 キロの小鉷（こぼく）を奉納しています。

ユネスコ部では、情報科学部時代から今回で 16 回目の参加となりました。旧年中にお世話になった皆様と新年のごあいさつもでき、今年もすばらしいスタートを切ることができました。今年 1 年が皆様にとりまして、ますます素晴らしいものとなますようご祈念申し上げます。ユネスコ部も皆様のご支援を賜りさらなる飛躍の年となるよう部員一同努力してまいります。



新しい年のスタートを切りました！



小鉷を奉納している様子

#### (63) 長崎大学の大学院工学研究科インフラ長寿命化センター

産学官連携研究員小島健一氏 別子銅山視察【1月7日】

長崎県から小島健一さんがご来市、別子銅山を視察され、ユネスコ部 2 年次生がご案内させていただきました。

2 年ぶりのご来市となりました。前はマイントピア別子（端出場地区）をご視察されましたが、今回は旧別子、広瀬歴史記念館・旧広瀬邸をご視察されました。

ただ、旧別子地区は標高 800m から 1,000m と高地となるため、積雪を心配していました。しかし、幸い前日からの晴天と小島氏の晴れ男パワー！のおかげで、寒さも厳しくなく、多少の積雪はありましたが、安全に視察することができました。

。私たちにとっては、新年初めての登山でもあり、部活動初の 1 月登山となり、雪景色の旧別子は大変貴重な経験ともなりました。

それぞれのポイントごとに部員それぞれが役割分担して、別子銅山の近代化産業遺産の魅力をご案内させていただきました。まだまだ勉強不足の点もありましたが、高校生のご案内について、「高校生の案内のおかげでよく理解できました。」とお褒めの言葉をいただくことができました。

今回は、東平地区は冬季閉鎖の為視察ができませんでしたが、ぜひ次回は、「東洋のマチュピチュ」としても脚光を浴びている東平地区をご視察いただきたいと思います。またのご来市をユネスコ部一同楽しみにお待ちしております。



旧別子地区の小足谷接待館跡をご案内する様子



旧別子地区にて積雪の中を登る様子





旧広瀬邸内をご案内する様子



旧星越駅舎前にてご案内する様子

(64) 平成 28 年度地域とともに生き地域とともに歩む高校生育成事業」

プレゼンテーション審査会【1 月 24 日】

「平成 28 年度地域とともに生き地域とともに歩む高校生育成事業」のプレゼンテーション審査会が松山市のにぎたつ会館で開催されました。

愛媛県教育委員会主催による今年度より始めた事業で、県内全ての県立高校から地域資源を活用した魅力ある学校づくりのプランを募集し、書類審査を通過した 16 プランが、今回の最終審査であるプレゼンテーションを行いました。

特に、このプレゼンテーションはこれまでにない試みとして、教員と生徒による発表で行われました。

本校からは、「別子銅山近代化産業遺産ガイドブック制作プロジェクト」のプランを作成し、発表しました。

村上敏之校長先生と本校からの代表生徒である 2 年次の田中陸矢君、堤優弥君、加藤文音さん、古川若奈さんが 6 名の審査員の前でプレゼンテーションを行いました。発表はトップバッターということで、会場全体が大きな緊張感に包まれる中でしたが、村上校長先生のリードと生徒たちの練習の成果が十分に発揮され、これまでで最高の内容でした。

なお、審査の結果は 2 月中に発表の予定です。16 プラン中 8 プランが採用されることができそうです。やるべきことはやり遂げました。後は結果を楽しみに待ちたいと思います。

※後日発表があり、採用決定となりました。



村上校長先生と生徒の掛け合いによる  
プレゼンテーションの様子



審査員より質問を受けている様子

(65) 「第 10 回とくしま環境学習フォーラム」で講演・発表【1 月 28 日】

徳島県・特定非営利活動法人環境首都とくしま創造センター・徳島新聞社主催による「第 10 回とくしま環境学習フォーラム」が徳島市シビックセンターにおいて開催され、河野義知教諭が基調講演、ユネスコ部員が活動発表をさせていただきました。

講演の演題は「環境問題と闘った先人たちの知恵に学び行動する」としました。別子銅山の近

代化に伴って起こった環境問題に先人たちがどのように立ち向かい解決していったのかについてお話をさせていただき、合わせてユネスコ部の活動についてもご紹介させていただきました。

ユネスコ部員は、本校で今年度取り組んだ「ESD 環境教育プロジェクト事業」（愛媛県教育委員会主催）についての活動を発表させていただきました。

発表後、別子銅山へ登ってみたいとの嬉しいご感想もいただきました。

その後、環境の学び発表会として、徳島県内で環境学習に取り組んでいる小学校や中学校の発表が行われました。発表したのは、阿南市立山口小学校が学校と地域の連携で取り組むエコプロジェクト、徳島県立富岡東中学校が環境・防災・子どもの3つの領域学習を通して持続可能な世界について考える学習実践、徳島市応神中学校は学校からのごみ排出ゼロを目指した取り組みについて、堂々とした態度で立派に発表していました。

体験を通すことで学びが深められ、次の発展的な行動へとつながっていく素晴らしさに感動しました。

鳴門教育大学特命教授の近森憲助先生もご来場されており、発表後、今後の取組について様々なご指導をいただくこともできました。今回も徳島県でご活躍されている多くの方々との出逢いがあり、今後へつないでいきたいと思います。



講演の様子



活動成果発表の様子

#### (66) 産業社会と人間『別子銅山 近代化産業遺産フィールドワークⅠ

～ 旧広瀬邸・広瀬歴史記念館訪問～』事前学習会【2月3日】

1年次生の総合「産業社会と人間」において、旧広瀬邸訪問の事前学習を本校会議室で行いました。講師は、1・2年次生のユネスコ部員6名が務めました。

始めに、広瀬幸平の生い立ちについて紹介し、別子銅山を中心とした功績、人物像に触れ、旧広瀬邸の魅力について発表しました。

その後、新居浜市が制作したビデオ「遠図（ENTO）～広瀬幸平の残像～」を視聴しました。

フィールドワークは2月9日に実施予定です。実際に現地を訪れ、広瀬の想いを感じてほしいと思います。



広瀬幸平について紹介している様子



ビデオを視聴している様子



(67) 別子銅山記念館研修会～住友化学開業 100 周年回想写真展～【10 月 22 日】

「かかわりをチカラに つながりをカタチに」を合言葉に、「地域教育東予ブロック集会」（主催：同実行委員会）の第 1 回大会が西条市中央公民館を会場に開催されました。

毎年大洲で開催している「地域教育実践交流集会」において、各地の地域活動者・活動グループが互いの交流を深め、地域の教育力を高め合う交流を行っています。

今回はその取組を東予でも行い、「高校生発！私たちの地域づくり！」として各地域で活躍している高校生に視点を当てた集会となりました。

そのシンポジウム「高校生が地域と取り組む実践報告」において、ユネスコ部の加藤文音さんと古川若奈さんの二人が報告をさせていただきました。

他のメンバーは、検定試験等で参加が叶わず、二人が代表を務めました。

情報科学部からユネスコ部への変遷や別子銅山をテーマとした活動や東北での現地研修、ツガザクラ保護活動や子ども食堂などについて紹介しました。

また、同じく新居浜からはボランティアサークル Ma y の皆さんも報告され、地域の方々と連携して高校生が企画・運営した数々の活動について詳しい写真や先輩からのビデオメッセージなどで活動内容を分かりやすく具体的に紹介されました。

そして、県外からの事例として、高知県黒潮町教育委員会からの報告や岡山県立矢掛高校の実践報告も行われました。特に、矢掛高校は学校設定科目として「やかげ学」を立ち上げ、地域と連携して 1 年間実習活動を行っていることでした。そのことが、様々な活動に派生し、矢掛町内の小・中・高校生が主体となったまちづくり活動へと展開しており、大変な驚きを感じました。

また、矢掛高校は 2008 年にユネスコスクールに認定されてる先進校でもありました。

その後、「若者と共に拓く地域づくりにどのように取り組むか」をテーマにワークショップも行われ、参加者同士でさらに学びを深められました。

今回の大会に参加させていただき、多くの出逢いがあり、同時に大きなヒントをいただくこともできました。本校での実践に活かせられるよう努力していきたいと思います。



活動報告の様子



活動報告を行なった高校生メンバー

(68) 「産業社会と人間」『別子銅山 近代化産業遺産フィールドワークⅠ

～ 旧広瀬邸・広瀬歴史記念館訪問～】【2 月 9 日】

総合「産業社会と人間」において、工業都市・新居浜の歴史を学び、現在の新居浜市の礎を築いた先哲の偉大さを実感する機会とし、新居浜の人々が別子銅山に寄せる思いの深さも理解することを目的に、旧広瀬邸と広瀬歴史記念館を 1 年次生 117 名が訪問しました。

旧広瀬邸では、居間の掘りごたつに入ってみたり、新座敷から庭園を眺めて感動の声を上げたり、事前に学習していたことを振り返りながら、ひとつひとつ興味を持って楽しく見学しました。

中には、展示の解説を丁寧にメモするなど熱心に取り組む姿も見られました。

また、母屋の望煙楼から眼下に広がる新居浜の街の景観をしばらく見つめている生徒もいました。帰校の時間になっても、しばらく居たいと感想も出るほどの盛況振りでした。

2 年次生になると、『別子銅山近代化産業遺産フィールドワークⅡ』として、山根製錬所跡の煙突がそびえる「えんとつ山」を見学します。本校では、全校生徒が地域の宝についてフィールドワークを通して体験的に学んでいます。



旧広瀬邸見学の様子



記録をとっている様子

#### (69) 平成 28 年度 第 2 回 E S D フェスティバル【2 月 11 日】

新居浜市教育委員会主催による E S D フェスティバルが、あかがねミュージアムで開催されました。このフェスティバルは、昨年からはまり、今年で 2 回目となります。

第 1 回目は新居浜市市民文化センターでの開催でしたが、あかがねミュージアムが開館したこともあり、今年はこちらが会場となりました。

市内各小中学校から多数の児童・生徒・教員が参加する中、ユネスコ部員は特別に見学者として参加させていただきました。

午前中の開会式のあいさつで、関福生新居浜市教育長さんは、「今回の作品は、日々の生活に密着したふる里への思いがこもった作品が多く、日ごろの活動を大切にしていることが感じられた。」と述べられました。

続いて、「第 11 回こころのこぼれコンクール」「第 4 回新居浜市小中学生ふるさと学習奨励賞」の表彰及び発表会が行われました。小中学生の皆さんの感性の豊かさ、プレゼンテーション能力の高さに驚きと感動の連続でした。特に、ふるさと学習では、ふる里を知るだけではなく、情報を収集してまとめる力や表現する能力が高められ、そのことからシビックプライドが育まれ、視点がグローバル化していくという学びの発展を見ることができました。



ふるさと学習発表の様子



実践事例発表の様子

午後は、「ESD 奨励賞」の表彰及び実践事例発表が行われました。

市内小中学校の他、先進的な取組を行っている高知県四万十町立七里小学校や松山市立新玉小学校の児童の皆さんによる発表もあり、お手玉や笛の演奏、演技も取り入れ、分かりやすく楽しい内容でした。

さらに、初めてとなるポスターセッションも行われました。

各ブースでは、小中学生の元気な声が飛び交い、実物やパネル、中にはタブレットを使うなど工夫され、時間をかけて準備をされている熱意が感じられました。

閉会式では、鳴門教育大学特命教授の近森憲助先生が講評をされ、「今回の取組全てが E S D であり、その一本通っているキーワードが『つながり・絆』である。」と述べられました。

今回参加させていただいたことで、小中学生の実践力の大きさ、学びの深さ、プレゼンテーシ



ョンのレベルの高さには目を見張るものがあり、たくさんのヒントをいただくことができました。  
私たちもさらに頑張らなければならないという思いを新たにすることができました。  
また、多くの方との出逢いもあり、このことをチャンスに、「学びの絆サイクル」の輪の循環に拍車をかけて行きたいと思います。



中学生のポスターセッションの様子



小学生のポスターセッションの様子

#### (70) 地球村へようこそ！『第 27 回新居浜グローバルパーティー』【2 月 12 日】

「JUST ONE WORLD!～世界は一つ～」を合言葉に、グローバルパーティーを楽しもう会・S G G 新居浜が主催し、新居浜ウイメンズプラザを会場に第 27 回新居浜グローバルパーティーが開催されました。外国の方は 14 ケ国 111 人（昨年 71 人）、日本人を含めた総数は 410 人（昨年 370 人）が参加しました。

本校からは、中国語講師である張永慶先生の中国語講座とユネスコ部がブースを設けさせていただきました。ユネスコ部は 4 回目の参加となりました。

今回も昨年に引き続き、別子銅山の近代化産業遺産について、英語での紹介にチャレンジしようと、英語での説明文を用意しました。部員それぞれがお気に入りの近代化産業遺産を分担して臨みました。なれない英語での説明ということもあり、最初は緊張して躊躇していましたが、勇気を出して話しかけ、頑張って説明させていただきました。昨年よりは一步踏み出せた取組ができました。皆さんとても優しく、フレンドリーで、私たちの説明一つ一つうなずきながら聞いてくださいました。

今回の貴重な体験は、私たち一人一人の「心の中に平和のとりでを築く」大きな一歩となりました。これからも勉強を積み重ねて、説明の範囲もさらに広げられるようレベルアップを目指して頑張ります。



スタッフ一同で記念撮影



英語で解説するユネスコ部員の様子

(71) 平成 28 年度地域を担う心豊かな高校生育成事業「地域活性化フェスタ」・

「えひめプロフェッショナルハイスクールコンソーシアム」【2月14日】

愛媛県教育委員会が主催し、平成 28 年度地域を担う心豊かな高校生育成事業「地域活性化フェスタ」及び「えひめプロフェッショナルハイスクールコンソーシアム」が愛媛県生涯学習センター（松山市）において開催されました。県立高校 55 校から生徒 133 名、教職員 60 名が参

加しました。本校からは、2 年次の田中陸矢くん、堤優弥くん、松浦理久くんの 3 名が学校を代表して参加しました。

午前中は、「地域活性化プロジェクト」実施校による成果発表及び意見交換が三つの分科会に分かれて実施され、それぞれが各分科会に参加しました。

特に、第 1 分科会において、田中陸矢さんがその分科会の司会者を務めました。初めての司会役でしたが、発表校の紹介や発表後の意見交換会等、手際よく進行し、立派に務めることができました。

なお、第 1 分科会では、新居浜商業高校による「商業高校の特性を生かした地域活性化プロジェクト」、宇和高校による「地域交流活動を通した、食農環境教育～農業科の特性を生かした地域活性化プロジェクト～」について活動成果が発表されました。

また、第 2 文化会場には、松浦理久さんが参加し、ここでは、丹原高校による「丹原町に活力を！地域活性化プロジェクト」、内子高校による「地域と学校の未来を見据えた魅力化プロジェクト～自分も町に役立つことがある～」について活動成果が発表されました。

さらに、第 3 分科会には、堤優弥さんが参加し、ここでは、大洲農業高校による「フルーツ王国 内子町で取組むオンリーワンの加工品づくりへの挑戦」、南宇和高校による「愛南町の魅力掘り起し地域活性化プロジェクト」について活動成果が発表されました。

午後の初めに、全体会場である県民小劇場において、午前中開催された地域活性化プロジェクト分科会報告が行われ、ここでも田中陸矢さんが第 1 分科会のまとめや自身の感想について堂々と述べました。

その後、同会場で「えひめプロフェッショナルハイスクールコンソーシアム」実施校による成果発表会及び意見交換会が行われました。

農業・工業・商業・家庭・水産の各部会から発表が行われました。農業部会は大洲農業高校による「エビネの倍数化技術確立による新たな産業創生」、工業部会は八幡浜工業高校による「WRO2016 インド国際大会【自立型ロボットの制作と制御】」、商業分野は宇和島東高校による「Developing the future!～イキイキした南予を目指して～」、家庭部会は上浮穴高校による「お茶から広がる新たな世界～飲む、食べる、つながる～」、水産部会は宇和島水産高校による「水産増殖 ESD～地域貢献活動から環境保護をみつめて～」について活動成果が発表されました。

全体を通して感じたことは、各学校が学校の特色や地域性を生かして、地域の方たちと連携した様々な取組が行われ、地域の活性化や地元への振興を充分担っている実践が多いのに驚きました。生徒たちは、地域の課題を見つけ、解決していく実践を通して新たな課題の発見にもつながり、さらにその課題を地域の方とともに解決していこうという姿勢が素晴らしいと感じました。今後は、これらをどう継続していくかが、本当の地域活性化につながるものだと思います。愛媛県では、来年度もこれらの事業を展開していくとことで、学校と地域との連携の絆がさらに広がり、深まることを期待したいです。



司会を務める田中陸矢さんの様子



分科会で発表が行なわれている様子





工夫された展示ブースの様子



成果発表会の様子

## (72) 第1回「百年の計、新居浜シビックプライド創造委員会」【2月16日】

文部科学省主催による「平成28年度首長部局等との協働による新しい学校モデル構築事業」の今年度の成果報告会となる第2回「百年の計、新居浜シビックプライド創造委員会」を本校会議室にて開催しました。

新居浜市からは教育委員会より関福生教育長さんを始め11名、学校・企業・団体行政関係者からは鳴門教育大学特命教授の近森憲助先生、新居浜ユネスコ協会の青野正会長さんをはじめとして9名の計20名、成果発表者としてユネスコ部6名が参加しました。

開会にあたり、始めに事業受託団体である新居浜市を代表して関福生教育長さんより「新居浜南高校が地域と大きなつながりを持ち、小中高のユネスコスクールとしてのESDの学びの推進に努めてくれたことを実感した。本委員会は、2020年の新学習指導要領実施に向けてその先導的な役割を担っている。本事業の成果が市民全体、県内、全国に広がっていけるよう、さらに深めていってほしい。」とごあいさつをいただきました。

続いて、実践校を代表して村上敏之校長先生から「本校では本事業に加えて、サステナブルスクール認定や地域共創系列創設、さらには県教委主催「地域に生き地域と共に歩む高校生育成事業」において、来年度の予算獲得にユネスコ部のメンバーとプレゼンテーション審査会に臨んだ。その際、審査員からシビックプライドを創造する際の検証について質問があった。生徒は南高に来て良かった、楽しいと言っており、保護者のアンケートでも満足度が年々上がってきている。先の推薦入試においても定員の2倍を超える応募があった。そういうところが、我々のやってきたシビックプライドの創造を含めたESDの成果ではないかと思う。」とのごあいさつをいただきました。

その後、事業報告として総合学科課長の河野義知教諭が、12月から現在までの事業報告をさせていただきました。

そして、その事業の目玉の一つであった「秋田現地研修」について、ユネスコ部員が研修成果の発表を行いました。

発表後は、これまでの取組を通しての感想や自身の変化について一人一人が述べました。部員たちは、郷土への愛着や誇りが持てたこと、コミュニケーション能力が向上したこと、自分に自信が持てるようになったことなど、思い思いに今の自分について語ることができました。

そのことを受けて、委員から質問があり、各々の思いを返答させていただきました。近森先生からはシビックプライドの創造の検証について、事前事後のアンケートを実施し、その質問内容も単純化し、選択肢は4か6といった偶数が良いとのアドバイスをいただくことができました。

最後に、来年度の事業計画についても説明させていただき、今後も本委員会を継続させていただくことについてご理解とご協力をお願いしました。

第2回 百年の計、新居浜シビックプライド創造委員会 参加者名簿（順不同）

新居浜市関係者

1	新居浜市	教育長	関 福生
2	別子銅山文化遺産課	係長	濱岡 里枝
3	環境保全課	主査	田村 淳
4	別子山支所	所長	藤田 和則
5	学校教育課	指導主幹	井上 美樹
6	スポーツ文化課	副課長	高橋 洋毅
7	惣開公民館	主事	明日 博美
8	泉川公民館	館長	原田 脩三
9	角野公民館	主事	小野 典子
10	別子山公民館	主事補	曾我 孝広
12	地域コミュニティ課	係長	尾藤 秀行

学校・企業・団体・行政等関係者

1	国立大学法人鳴門教育大学	特命教授	近森 憲助
2	新居浜ユネスコ協会	会長	青野 正
4	新居浜まちおこし委員会	委員長	西原 洋昂
5	新居浜商工会議所産業振興部産業創出課	課長	矢野 英司
7	愛媛県東予地方局地域政策課	課長	山本 泰士
8	愛媛県総合科学博物館学芸課	担当係長	吉村久美子
9	愛媛県立新居浜南高等学校	校長	村上 敏之
10	愛媛県立新居浜南高等学校	教頭	加地 雅彦
11	愛媛県立新居浜南高等学校	教諭	河野 義知





関福生教育長さんあいさつの様子



村上敏之校長先生あいさつの様子



ユネスコ部員発表の様子



会場全体の様子

(73) 別子銅山を読む解説講座⑤「旧別子銅山案内」坪井利一郎氏【2月18日】



講演される坪井利一郎さん



講演中ほら貝を吹いている様子

別子銅山記念図書館において、第5回目となる別子銅山を読む解説講座が開催され、元別子銅山文化遺産課課長の坪井利一郎氏より「旧別子銅山案内」（昭和44年4月1日刊行）についての講演がありました。

今回は、ユネスコ部員5名で聴講させていただきました。本書は別子銅山に関する古典といってもいい本であり、単行本としては最初の郷出版本とのこと。また、驚くべきことは付録としてアルバムがついていること。そして、年間1回以上の旧別子案内のガイドを務められる坪井氏にとって、本書に折り込まれている「明治中期の別子銅山」の地図はガイド資料として、今も活用されています。ただ、刊行後、48年経過していて記述内容が読み解けない部分があり、坪井氏により検証され、解説いただくことができました。

今回の学びは、旧別子をガイドさせていただく機会のある私たちにとって大変貴重な学びの機会となりました。改めて、しっかりと学習し、史実に基づいたガイドができるよう努めて行きい

たと思います。また、坪井氏によってさらに分かりやすく追記された明治中期の別子銅山の地図もぜひ活用させていただきたいと思います。

今年度の本講座は今回が最終回となりましたが、新年度も講座は続きます。ますます、楽しみです。

#### (74)「吉岡銅山を世界遺産にする会」別子銅山視察ご案内【3月4日】

「吉岡銅山を世界遺産にする会」の皆さんが別子銅山を訪れ、ユネスコ部員が東平地区をご案内させていただきました。

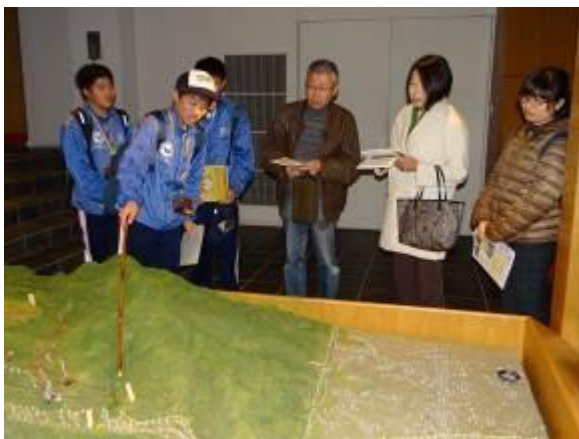
吉岡銅山は住友が開発していた時代もあり、別子銅山の発見者といわれる切上がり長兵衛も働いており、その長兵衛が別子銅山に有望な銅鉱石があることを通報した先が吉岡銅山の支配人であるなど、とても縁の深いつながりがあります。

その吉岡銅山を目の前とする西江邸（国登録有形文化財）の株式会社西江邸代表取締役の西江晃治さん、同取締役文化事業部長の西江薫子さんら3名がご来市されました。

東平に到着後、初めに歴史資料館を見学していただきました。館内では、紹介ビデオやジオラマをご覧になり、別子銅山の歴史や東平地区について理解を深めていただきました。その後、東平の始まりの地となる第三地区をご案内させていただきました。ここでは、第三通洞や第三変電所、火薬庫跡、採鉱本部跡などを見学、部員たちの解説を熱心にお聴きいただきました。そして、沢山のご質問もいただくなど、多くの気づきや学びを深める機会ともなりました。西江さんたちは、近代化産業遺産の多さに驚かれています。

視察の最後に訪れた場所は東平のメインとなる索道基地跡でした。特に、貯鉱庫跡のスケールの大きさに感動されていました。

西江さんから、世界の視点からの近代化産業遺産の捉え方や吉岡銅山・足尾銅山・別子銅山を複合遺産として登録することについて、また、2018年が明治150年の節目を迎えるにあたっての政府の動向など、具体的で貴重なお話をたくさんお伺いさせていただきました。西江様にはこの度の貴重な機会をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。今度は、私たちが吉岡銅山を訪れてみたいと思います。



地形ジオラマで位置関係を説明している様子



第三通洞について説明している様子



インクラインの仕組みを模型で説明している様子



貯鉱庫のしくみをパネルで説明している様子



### (75)「書きそんじハガキ・キャンペーン」ご協力ありがとうございました！【3月7日】

今年度の「書きそんじハガキ・キャンペーン」は生徒会のユネスコ委員会が主体で行って来ました。

回収用の封筒を工夫して作成してくれたユネスコ委員もいました。

そして、本日「書きそんじハガキ・キャンペーン」が終了し、各クラスや職員室等から回収した書き損じハガキ等の集計作業を行いました。

集計結果は、ハガキ 148 枚（昨年 125 枚）、切手 3,177 円分（昨年 3,892 円分）、図書カード等 3,000 円分（昨年 2,000 円分）でした。昨年に比べ大きく増加しました。

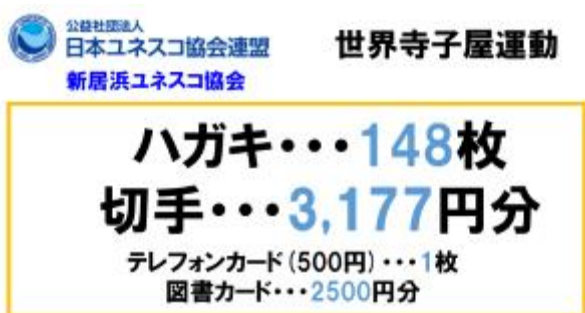
ご協力いただいた皆さん、温かいお心をありがとうございました。

早速、本日、新居浜ユネスコ協会事務局へお届けさせていただきました。

この運動は、年間を通じて行っています。回収ポストや封筒は様々な場所に設置されています。

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」これからも、皆さんで平和のとりでを築く歩みを進めて行きましょう。

引き続きご協力をお願い致します。



今回のご協力によってカンボジアでは  
24人の子供がひと月学校へ行けることになります



みなさんのご協力ありがとうございました

このキャンペーンは年間を通じて行っています。  
引き続きご協力よろしくお願いします。



愛媛県立新居浜南高等学校 生徒会・ユネスコ委員会・ユネスコ部

生徒が作成した報告用ポスター



集計作業の様子



回収したハガキや切手、図書カードなど

### 3 まとめと今後の課題

今年度は、「サステイナブルスクール」、「首長部局等との協働による新しい学校モデルの構築事業（以下、首長部局事業）」、「ESD 環境教育プロジェクト事業」等、大きな事業の実践を通して、学校と地域、人と人とのつながりが次の活動へと結びつき、活動の輪の広がり活動内容の深化を行うことができました。

「サステイナブルスクール」では、新居浜市立惣開小学校も認定を受け、今年度は両校の研究成果発表の視察が教職員レベルで始まり、来年度は児童・生徒の交流学习も計画しています。

「首長部局事業」では、新居浜市教育委員会を核として各部局、鳴門教育大学、愛媛県東予地方局、愛媛県総合科学博物館、新居浜商工会議所、東予信用金庫を始め地元企業等、新居浜ユネスコ協会を始め新居浜まちおこし委員会等諸団体関係者による委員会も設置することができました。現在、来年度の事業については申請中ですが、事業に関わらず、委員会は存続して行くことも関係者から御内諾

をいただいています。

このような実践を行なって行く中で、ユネスコ部が日本ボランティア学習協会より「アレックディクソン賞（教育実践部門）」を受賞する栄誉をいただきました。

#### 【アレックディクソン賞（教育実践部門）について】

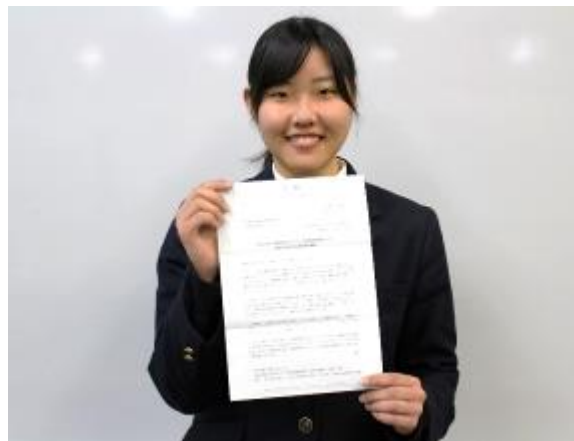
“世界のボランティアの父”と呼ばれ、国や地域を越えてボランティア学習の普及に大きな功績のあった、イギリスのアレックディクソン博士（Dr. Alec Dickson）の業績を記念して、日本ボランティア学習協会により、コミュニティからグローバル社会を舞台に多彩に展開されているボランティア学習の限りない可能性への探求と発展を願って創設された賞です。



アレックディクソン賞の表彰状とトロフィー [新島ガラス製]



アレックディクソン賞授賞式の様子



インドネシアへ派遣される古川若奈さん

また、第7回 ESD 国際交流プログラムに応募していた2年次生の古川若奈さんが、ユネスコ部での活動が認められ、100名あまりの応募者の中から選出され、日本代表の一人として3月24日から3月31日の間、インドネシアへ派遣される栄誉も勝ち取ることができました。

新年度は、本校において平成30年度から開始する新系列「地域共創系列」の準備段階の年となります。また、「地域と生き地域とともに歩む高校生育成事業（愛媛県教育委員会主催）」の採用も決まりました。

さらに、「四国地方 ESD 活動支援センター（仮称）」の設立準備も行われるなど、校内外共に様々な動きが活発になってくると予想されます。

今後は、関係者の皆様との絆をさらに深め、強固なものとしながら、ユネスコスクールとして ESD を推進し、『学びの絆サイクル』の循環をより確実なものとするために邁進して行きたいと思います。



(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

☒ 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）

☐ 時間外活動の時間を使用

☒ ユネスコクラブの活動として実施

☐ その他（ ）